

正高寺本『禅戒游刃』本文紹介

青 龍 宗 二

先きに宗門の大事業として、曹洞宗全書の覆刻・増補の完結をみたが、その覆刻に止むを得ない事情から、いくつかの諸本が未校合のまま収録されている。例えば禅戒の覆刻凡例によれば「次の収録本は、その筆写本、刊本を探したが、校合用底本には決めがたい異本であるので、未校合のまま覆刻した。」として、梅山和尚戒法論一卷、禅戒問答一卷、禅戒游刃二巻、戒会落草談一卷の諸本を挙げている。これらの諸本は板刻されなかったらしく、写本で伝承したという点から、何れも底本に足りる善本は、直ちに発見できないであろうが、それにしても、これら諸本の本文を通読すれば、明らかに誤字・脱字と解る語句は、異本との校合で訂正注記すべきでなかったかと惜しまれてならない。やはり異本との校合を通して、より正確さを期するところに、覆刻の意味があるのでないかと思う。

ここに『禅戒游刃』の異本たる正高寺本の本文を紹介し

駒澤大學佛教學部論集第十號 昭和五十四年十一月

て、研究者の参考に供したいと思うが、本書は筆者の自坊に伝わる青竜文庫所蔵の一本で、宝曆七年（一七五七）の年号を有する写本である。同文庫には、更にこの写本の外に珍牛和尚（俗姓・青竜珍牛一八二六〜一八七〇）の書写にかかわる嘉永三年（一八五〇）の抜書一本をも所蔵するが、この両写本の存在は曹洞宗全書初版刊行当時、すでに公にされた書であつて、全書『禅戒游刃』の巻末に

一本ニ左ノ識語アリ

斯時寶曆七年五月吉旦、於ニ妙玄精舍ニ拜寫之、

一本ニ左ノ識語アリ

右之書者、禪戒游刃拔書也、餘嘉永庚戌仲秋得ニ之於向野村淨土寺、以拜寫、蓋禪戒游刃、可ニ正山古佛法嗣白龍老人之作、而老人又曰、此有ニ古德提示ニ略奉ニ一二、則知レ不ニ是自作ニ焉、

現正高珍牛拜書

とある両識語は、共に前記写本の奥書である。

今は本文紹介が主目的であるので、簡単に宝暦七年の写本について解説しておく、その形態は白竜和尚撰述の『承陽古仏年譜吟』写本と綴合せの帳数一帳、寸法縦二三・五糎、横一七糎、紙数二十八紙である。書写名は奥書に記述されてなく、『承陽古仏年譜吟』の識語中に「宝暦八年戊寅六月二日、於洛西大山、遠孫瑞謹拝写」とあるだけである。表紙の外題・目次は珍牛和尚の書換えに基づくもので、本文の書筆と異なっている。更に本文中の句読点と奥書は朱書されているが、返点や送り仮名は墨書であるので、それらは原書の写しと見られる。特に内容を曹洞宗全書所収の寛政本（一七九九）と比較して見ると、後の対照の如く一長一短であり、著しい相違はないが、正高寺本に二・三の本文の省略箇所が認められるから、外題の如く略本とも解されるが、大巾な所謂の略本ではない。尤も寛政本にも略文が数箇所存在する。この写本が宝暦七年書写の伝承であるか、写本の転写であるかは今のところ、はっきりしないが、資料的にはこの写本は白竜和尚の法孫によって伝承されている事実から、価値の高い資料と言える。

試みに、白竜和尚の法嗣・古国靈胤は、豊後国速見郡山香郷（現山香町）の長流寺八世に晋住し、次いで同郷内の浄土寺十三世に転住して以来、その法孫は幕末まで同寺に歴住し

ていることで、明らかな通りである。正高寺本『禪戒游刃』は、何れも近隣の浄土寺より禪戒の研究に努めた若き珍牛和尚に与えられ、抜書したものである。

原書『禪戒游刃』は、白竜和尚（一六六九～一七六〇）が師翁・先師たる月舟、卍山両師の禪戒復興の精神を挙揚せんために書かれたものとされるが、本来この書は序跋識語を欠いているため、その撰述者や撰述年代は定かでない。ただわずかに本文中の「寛保マデ四百年」の割注や「先師卍老人」等の言葉がそれらを示唆しているに過ぎない。一往これらの言葉から、撰述年代は京都妙玄菴在住の寛保年代（一七四一～一七四四）であることが判明し、撰述者は卍山和尚の門人であることが解るが、しかし卍山和尚には卍海をはじめ四十余人の法嗣が伝えられるから、直ちに白竜和尚に結びつかないものの、白竜和尚の法系による承伝や珍牛和尚の識語で、白竜和尚の撰述名が裏付けられる。

この点、正高寺本の存在意義は大きい、因みに現今、筆写本には前記二本の外に、明和九年（一七七二）日山東海の写本、寛政十一年（一七九九）の遠孫沙門龍頭陀の写本、萬延二年（一八六一）書写の岸沢文庫所蔵本、昭和二年（一九二七）筆写の四本が伝えられている。

凡 例

- 一、正高寺本『禅戒游刃』全文の紹介に当たり、曹洞宗全書所収の寛政本と比較し、その違いを下記の脚注に一々示して便ならしめた。
- 一、脚注の記号は、正高寺本『禅戒游刃』を宝暦本、曹洞宗全書所収本を寛政本とし、珍牛和尚抜書の写本を嘉永本として略称した。
- 一、原文はできる限り、そのままとしたが、あて字、濁点等は改めた。
- 一、誤りと見られる句読点は改めたが、句読点の付け方で意味の異なる場合は、そのまま残し、寛政本との違いを脚注に示した。
- 一、漢字や仮名の異体、略体字は、慣用の字体に改めた。
- 一、読みやすくするため、脱字や助詞を必要に応じて△ √内に補足した。
- 一、※の記号は、校正途中に寛政本との異同を補足したものである。

禪戒游刃 略

第一加行

二懺悔

三戒源

四戒體

五護持

嘉永三庚戌晚春

如是菴主

禪戒游刃

加行

此間、傳戒受戒ノ願ヒニ應ジテ、先ヅ道場ヲ開テ、禮讚讀經、加行懺悔ノ法ヲ行フ、學佛ノ衲子ハ、初發心以來、盡未來際、一枚ノ修行ナリ、一枚ノ接心ナリ、シカレドモ、根機劣ニシテ、信心篤カラザルユヘ、別シテ加行ノ場ヲ設ケ、專修ノ心ヲ礪マス、他宗他門ニハ、或ハ五十日、或ハ百日、乃至三年、五年、十二年、三十年、加行禮懺ノ修法、數多ク弘演セリ、我が宗ニハ、行脚遍參、コレ三二十年ノ加行ナリ、結制安居コレ百日ノ加行ナリ、特ニ我此ノ大衆、行住坐臥、一味辨道、全ク他岐ナシ、然ルニ亦ハタ改メテ、加行ヲ勤ムルニ、一七日ヲ限リ、晝夜不退間斷アルコトナク、諸緣ヲ除キ、萬事ヲ捨テ、只此ノ禮佛三昧ナリ、讀經三昧ナリ、是ハノ故ニ藥王菩薩、シカアレバ此ノ身心ヲ以テ、佛

（表紙外題）

（目次）

（内題）

（1）嘉永本「攝心」ニ作ル

（2）寛政本「ヲ」ナシ

（3）寛政本「ハ」ナシ

（4）寛政本「ク」ナシ

（5）寛政本「三十年」ニ作ル

（6）寛政本「藥王」ト「菩薩」ノ中間ニ次ノ

法海中ニ放捨シ、名聞ヲ思ハズ、利養ヲ貪ラズ、是非ニ拘ラズ、善惡ニ住シテ、者個ノ時節ヲ失ハズ、者個ノ端的ヲ昧サズ、誠ノ中ニ誠ヲ傾ケ、切上ニ切ヲ加ルトキ、一唱一禮、活佛活祖ノ皮肉骨髓ナリ、一言半偈、自己本分ノ眼睛鼻孔ナリ、恁麼ニ信得シテ、當體無二ナルハ、大信決定ナリ、大智現前ナリ、大事明了ナリ、大戒圓成ナリ、コレヲ眞實ノ加行、無上ノ功德ト云フ、若シ亦志シ堅タカラズ、懃ムルコト誠トアラズ、名聞利養ヲ逐ヒ、是非善惡ニ拘ハリ、人ノ咎ガヲ責メテ、己ガ非ヲ恕シ、柔弱ノ心、懈怠ノ心ヲ以テ、修スルトキハ、一禮ヲ行ズルモ太山ヲ超フルガ如ク、一日ヲ過ルモ、百劫ヲ經ルニ似テ、妄想ノ魔ニ嬖マサレ、睡眠ノ咎ガヲ受ク、誠ニ同一殊勝ノ加行ニテ、利益ノ得失ハ、天地懸ルカニ隔ダタリ、慚愧憐愍セザルベケンヤ、コノユヘニ、加行場中他ノ是非好惡ヲ論ジ、和合僧ヲ破ルモノアラバ、速ニ知事ニ告テ、道場ヲ擯出スベシ、人我業障ヲ消滅スルトテ、禮佛加行スルモノ、少シハモ心ニ應ゼザレバ、忽ハチニ人戒ヲ逞フシ、大ニ衆念ヲ動ズルハ、法中ノ罪人ナリ、同ク加行スルコトヲ許サズ、同ク得戒スルコトヲユルサズ、モトモ深く戒慎スベシ、且ツ佛祖歷代、無戒ニテ、佛道ヲ學ブコトナシ、戒ヲ受ルニヨリテ、佛子トイワルルナリ、故ニ瓔珞經云、有而犯者、勝無不犯、有犯名ニ菩薩、無犯名ニ外道、シカアレバ大眼目アリテ、大清淨ヲ得、諸經論ニ通達シ、一切ノ玄妙ヲ究盡スル人ニテモ、一タビ明師ニ就テ、此ハノ佛戒ヲ受ケザレハ、天然外道ニ同ジ、是ハレ乃ハチ佛言ナリ、信ゼザルベケンヤ、モトモ知識長老タル人、傳戒ノ儀ヲ了セザレバ、宗門血脈ノ大事味カルベシ、此ハノ儀無分曉ニテハ、爲人度生、乃至存亡ニ付授スル、當然ノ儀モ

文アリ

業上經、所謂釋迦牟尼佛告大衆言ク、我昔シ無數劫ノ時、於妙光佛末法ノ中、出家學道、聞五十三佛ノ名、心生歡喜、復教人持聞、乃至三千人、此ノ三千人異口同音ニ、稱諸佛名、一心敬禮、以此功德力、超越無始億劫生死ノ罪、始千人首華光光佛、至毗舍浮佛、於莊嚴劫、成佛道、乃チ過去ノ千佛是ナリ、此中千佛首拘留孫佛、至樓至佛、於賢劫ノ中成佛、後ノ千佛、首日光佛、至須彌相佛、於星宿劫成佛、現在十方諸佛善功德如來等モ、亦聞五十三佛ノ名、於十方沙界、各成佛、若有善男子善女人及ビ一切衆生、得聞五十三佛ノ名、於百千萬億阿僧祇、不墮惡趣、復有人聞五十三佛名者ハ、生生值遇諸佛、復能至心敬禮者、除四重五逆及諸災、於念念中即得除滅、如上衆罪、諸經得聞五十三佛三十五佛名、至心受持、恭敬禮、離地獄畜三惡道苦、滅百劫重罪等、又三千世界ニ滿ル七寶ヲ以テ、一百歲布施スルトモ、不如禮八十八佛ノ功德、若又一念生不信誹謗ニ罪、百千劫墮阿鼻無出離、總ジテ讚歎ノ功德、廣大無邊ナリ、

(7) 寛政本「ニ」ニ作ル

(8) 寛政本「宗」ニ作ル

(9) 寛政本「モ」ナシ

(10) 寛政本「レ」ニ作ル

(11) 寛政本「スベシ」ノ下ニ「加行中規約、戒會ノ役者、直壇告報ノ通り聊モ相違ナクツトムベシ」ノ文アリ

※ 寛政本「瓔珞經ニ云有テ、而モ犯者勝無不犯」ニ讀ム

(12) 寛政本「老人タル」ニ作ル

(13) 寛政本「ノ」ナシ

(14) 寛政本「大事ノ訣ケ、不分明ナルベシ」ニ作ル

立入チ▽ガタシ、シカモ此入ノ▽所ニ心付ナク、居然トシテ人ノ供養ヲ受ケ、知識ノ名ヲ于スコト、自他ヲ昧シ、生生ヲ錯マルナリ、又授受ノ式ヲ了セズ、傳來ノ旨ヲ會セズ、他ノ戒本ヲ見聞シ、コレニ依テ謾リニ戒ヲ授受スルハ、大ニ佛法ヲ戲論スル、其ノ咎無量ナリ、佛祖兒孫タルモノ、コレヲ戒メザランヤ、又學者分上トテモ、程ドナク知識ノ身トナレバ、人人法中ノ法王ナリ、知識下劣ノ心ヲ以テ、心地戒ヲ昧スベカラズ、モトモ衣鉢境界人天福田ト稱シテ、佛戒ヲウケザレバ、刹那モ立入チ▽ガタシ、イソギ發心願求スベシ、又剃髮時、受戒ノ儀ナキ人ハ、方袍圓頂ノ形ノミニテ、無戒外道ト云入フ▽モノユヘ、尙更早ク求ムベシ、又剃髮ノ時、受クトイヘドモ、幼年ユヘ、何事ヤラン、覺ヘモナケレバ、受戒ト名ノミニテ、戒徳全タカラズ、是入レ▽亦改メウクベキナリ、又先キニ受テモ、持ツ心ナク、戒題ノ訣モ知ラズ、ウカウカトシテ、犯戒無慚ニウチクラス人ハ、佛子ノ名モアリ、本ノ戒モアレドモ、眞清淨ナラヌユヘニ、罪過アリ、早ク懺悔ヲ致シ、改メテ重受スベシ、人トシテ誤ラスト云コトナシ、懺悔スルヲ以テ佛道トス、又先キニ正ク受ケ、全ク持チ、眞清淨ナレドモ、戒會ノ縁ニ値テ、重テ受クルコトアリ、コレ大ナル勝利ナリ、佛教ニモ、戒ハ授受ヲ貴ブユヘ、戒縁アラバ、一日ニ七座ヲモ受クベシ、仰セラル五門、寺院交代ニ、此入ノ▽戒ヲ重受セルモ、此入ノ▽義ヲ存スルナリ、今此會中、重受ノ人多シ、錦上布花、重疊ノ功德ナリ、前後戒光輝ヲマシテ、佛門ヲ莊嚴スルナリ、又父母ノ代受、先亡ノ追福トテ、カワリテ受クル人アリ、凡ソ供養ヲ設ケ、佛僧ヲ請シテ、業障懺悔ノ行法事ヲ營ム、廣大ノ功德ナリ、況ンヤ自身先亡ニカワリテ加行ヲツトメ、懺悔ヲ修

(15) 寛政本「戒」ニ作ル

(16) 寛政本「テ」ナシ

(17) 寛政本「スル」ナシ

(18) 寛政本「トナリ」ニ作ル

(19) 寛政本「知識」ナシ

(20) 寛政本「ヲ」ニ作ル

(21) 寛政本「イソギテ」ニ作ル

(22) 寛政本「ノ」ナシ

(23) 寛政本「又」ニ作ル

(24) 寛政本「ベシ」ニ作ル

(25) 寛政本以下ニ「是レ乃重受ナリ」ノ文アリ

(26) 寛政本「ベシト」ニ作り、句讀點ナシ

(27) 寛政本「ノ」ナシ

シ、大戒ヲ得受スルハ、第一ノ法供養ナレバ、是ハレ⁽²⁸⁾ボドノ至孝追薦アルベカラズ、誠ニ受戒ノ志シアレドモ、碍リアリテ、アヅカリガタキ時ハ、他ノ授受スルヲ勸發スベシ、モトモ讚歎シ、隨喜シ、四事ヲモチテ、其ノ人ニ供養スベシ、シカアレバ自身發得ト齋入シ⁽²⁹⁾ク戒縁ヲ得ルナリ、コレ佛祖ノ御示ナリ、能能信受セラシベヨ、モシ亦嫉妬ノ念ヲ起シ、誹謗ヲ行ズル人ハ、自身ノ佛種ヲケヅリ斷チ、他人ノ道業ヲ破壊スル、是レ佛法ノ冤讎ニテ、魔王ノ眷屬タルナリ、又一人ニテモ、菩薩ノ大心ヲ發シ、菩薩⁽³²⁾ノ大戒ヲ受ルハ、三千界ニ匹儔ナキ、善根功德ユヘ、十方諸佛、天神地祇、共ニ隨喜讚歎シ玉フトナリ、シカアレバ、此ハノ⁽³⁴⁾會兄弟親切ノ隨喜、勞ヲ忘レ志ヲ助テ、加行面面ト同ク、一戒光明ニ和シ照ラレ、不可思議ノ因縁、豈慶快セザルベケンヤ、又登壇ノ前、豫メ說戒スルコトハ、受者ノ用心ニ借ルナリ、經云、若有⁽³⁵⁾人欲ニ來受⁽³⁶⁾者、菩薩法師先爲ニ解說讀誦、使⁽³⁷⁾其人心開⁽³⁸⁾意解、生⁽³⁹⁾樂著⁽⁴⁰⁾心、然後爲受、カクノ如ク、佛ノ御示ユヘ、苦口ニ告諭スルナリ、モトモ戒學ニ乏ク、口輪モ轉ジガタシ、タダ傳來ノ心得ヲ少シ示⁽⁴¹⁾シ⁽⁴²⁾申スナリ、シカモ此ノ戒ノ說ヲ聞ク時、早ク戒德ヲ具スルナレバ、容易ニ思ハズ、眠ラザルヨウニキキ玉ヘ、又外來在家ノ人ハ、耳ニ落チガタキコトアルトモ、恭敬シテ聽聞シ玉ヘ、此ノ佛戒一タビ耳根ニ觸ルレバ、永ク識田ニ入⁽⁴³⁾リ⁽⁴⁴⁾、生生世世菩提ノ道種トナルコト疑ヒナシ、コノ故ニ、大乘ハ結縁ヲ貴ブナリ、佛ノ曰、千里ノ内ニ說戒布薩アラバ、マイリアヅカルベシトアリ、今マ諸人ハ幸ニ程近キ所、カクノ如キ勝縁ニアヅカルコト、誠ニ宿殖善根ノホドモアリガタク信仰アルベシ⁽³⁶⁾

(28) 寬政本「ノ」ノ字ナシ

(29) 寬政本「遠方又碍リアリテ、白白出會ナラ又人ハ、代受ノ訣モアリ、是レ不得已佛許之玉フナリ」ノ文アリ

(30) 寬政本「シ玉フベシ」ニ作ル

(31) 寬政本「モシ」ノ字ナシ

(32) 寬政本「ノ」ノ字ナシ

(33) 寬政本「ノ」ノ字ナシ

(34) 寬政本「ラサレ」ニ作ル

(35) 寬政本「ハ備」ニ作ル

(36) 寬政本「信仰アルベシ」ノ以下ニ次ノ文アリ

大集月藏分偈ニ曰、若人百億諸佛所、於多藏數、常供養、若能七日在三蘭若、攝根得⁽³⁷⁾定、福多⁽³⁸⁾彼、若有⁽³⁹⁾供養禪者飲食衣服及湯藥、是人消滅無量罪、亦不墮⁽⁴⁰⁾於三惡道、欲⁽⁴¹⁾成佛道、常在⁽⁴²⁾禪若不⁽⁴³⁾能、當⁽⁴⁴⁾供養、龍樹菩薩勸⁽⁴⁵⁾發禪陀迦王偈曰、是身不淨、凡孔流、無⁽⁴⁶⁾有⁽⁴⁷⁾窮已、若⁽⁴⁸⁾海、薄皮覆弊似⁽⁴⁹⁾清淨、猶⁽⁵⁰⁾假瓔珞自在嚴、諸有智人乃分別、知其虛誑、便棄捨、譬如疥者近⁽⁵¹⁾猛烟、初雖⁽⁵²⁾暫悅、後增⁽⁵³⁾苦、貧欲之想、亦復然、始雖⁽⁵⁴⁾樂著、終身患、見⁽⁵⁵⁾身實相皆不淨、即是觀⁽⁵⁶⁾於空無我、若能修⁽⁵⁷⁾習此觀者、於⁽⁵⁸⁾利益中⁽⁵⁹⁾最無上、雖⁽⁶⁰⁾有⁽⁶¹⁾色族及多聞、若無⁽⁶²⁾戒智、猶⁽⁶³⁾禽獸、雖⁽⁶⁴⁾處⁽⁶⁵⁾醜醜⁽⁶⁶⁾少⁽⁶⁷⁾聞見、能修⁽⁶⁸⁾戒智、名⁽⁶⁹⁾勝上、大象出窟、遂爲⁽⁷⁰⁾一尾⁽⁷¹⁾所⁽⁷²⁾碍、行人出家、

懺悔

夫レ三界受生萬類品物アリ、無始劫來、朝生夕死シテ、貪瞋痴ノ三毒、身口意輕重ノ所犯、念念起滅、剎那生死、人我無明、法執法愛、惡知惡覺、種種業障、無量無邊ナリ、モシコノ罪業體相アリシカバ、虚空法界モ容レ受ルコト、能フマシ、往昔ノ業因ニ隨テ、今日ノ果報ヲ受ク、誠ニ恐レテモ懼ルベク、戒メテモ戒ムベキナリ、コノ故ニ我ガ法中ハ、業障懺悔ノ一念ヲ以テ、修ノ要務トス、懺悔ハ諸善根ノ母ニテ、懺悔ノ一念ヨリ、萬行萬徳、生生世世ノ善根生出スルユヘ、實ニ成佛道ノ根本ナリ、佛祖ノ正法、今日ニ相續アルコトハ、懺悔ノ法、傳ハルユヘナリ、若シ懺悔ナクンバ、佛法即滅セン、コノユヘニ半月半月ニ懺悔布薩セリ、懺悔布薩アリシハ、佛法ト知リヌベシ、且ツ諸ノ行法事、現前ノ祈禱、先亡ノ追薦モ皆コノ懺悔ノ法ナリ、衲僧家念念非ヲ知り、時時過ハチヅラクヘ、無塵ノ塵ヲ掃ヒ、無垢ノ垢ヲ洗ヒ、無相ノ懺ヲ行ジ、無作ノ戒ヲ持チ、百千ノ三昧ニ遊戲シ、無量ノ妙義ヲ宣揚シ、大菩提ヲ成シ、一切衆生ヲ度スルモ、盡ク是レ懺悔ノ功德ニヨラズト云ハフヅコトナシ、シカレドモ、少善根ノ人ハ、懺悔ノ名ヲダニキクコトアタハズ、況ンヤ懺悔ノ實ヲ得ンヲヤ、ソレ無道無狀ニシテ、因果ヲクラマシ、百年ノ壽ヲタモタンヨリハ、道ヲ聞キ、法ヲ行ハジヅテタベニスナハチ死センモ、イト本懷タルベシ、佛ノ言ク受レ戒者入ニ菩薩數中、超ニ過三劫生死苦、是ハレヅ又懺悔ノ力ナリ、亦曰於三國土中、教ニ化一人ニ出家受ニ菩薩戒者、其福勝造ニ八萬四千塔、況ヤ復二人三人乃至百千果福、不可稱量、是亦懺ノ力也、シカアレドモ、佛法ニ至極ノ難事アリ、イワユル人身ハ、ウケガタキナリ、佛緣ムスビガ

※ 遂爲名利之所縛、則知、出離最後之怨、莫大乎名利者也、誰人モ名利我護（慢カ）ハ難レ除モノユヘ、佛祖惡ミ、種種説示アリ、如是ノ事ヲ聞ク時モ、胸中我慢名利ニテ塞ゲ置キ、佛祖ノ説示モ聞人ナク、却テ愈我慢我習（執カ）ヲ増スハ、人人分上甚ダ笑止千萬ナリ、聊ノ事アレバ、品品取添ヘ理窟ヲ設ケ、衆念ヲ動シ、我人トモニ覺ヘズ、生生世世ノ惡種ヲ作ルコト、扱扱可レ恐レ懼コトナリ、理窟淨論我慢高慢ヲ空シ、大忍辱ノ衲子トナランタメ、行脚苦辛スル身、却テ衆念ヲ動シ、我慢ヲ起スハ如何、
寛政本「修行」ニ作ル、寶曆本ノ脱字カ

(37) 寛政本「淨王ト」ノ語アリ

(38) 寛政本「者」ナシ

タキナリ、コノユヘニ佛タトヘヲトキテ、大地ト爪上(40)ノ多少ヲタクラベ玉ヘリ、又縁近
 而遠、雖_レ在_ニ佛菩薩知識側_ニ、不_レ與_ニ其法化_ニ、不_レ知_ニ少利益_ニ者是ナリ、聖人ノ門ニ遊ンデ、
 其道ニ心ナキ、彼ノ東家ノ丘ト云ヒシ如キナリ、コレ般若ノ縁分ウスキコト、モトモ恨ム
 ベシ、イマコノ戒衆ハ受ケガタキ人身ヲウケ、結ビガタキ佛縁ヲムスビ、逢ヒガタキ法縁
 ニアヒ、入りガタキ僧數ニ入り、ソノ上ヘ(41)參禪學道ノ身トナリ、知識教化ノ下ニ居リ、加
 行ノ時ヲ得テ、懺悔ノ法ヲ行フ、又菩薩戒ヲ受ケ、ボサツノ數ニ入り、隨喜ノ菩薩士ハ、
 人ヲシテ受ケシメ、受ルヲ讚歎シ、ナスヲ隨喜ス、誠ニ爪上ノ土ヨリモ希有ナルベシ、又
 ソノ功德八萬四千ノ塔ヲ造ルニマサレルコト、イト貴トビヨロコブベシ、嗚呼人命無常ナ
 リ、佛法難_レ逢佛說好緣不可失ナリ、モシコノ時ヲ失ヒ、コノ緣ヲ空フシテ、至誠ニ懺悔
 シ清淨ヲヘズンバ、イヅレノ時ヲカ待ツベキヤ、寶ノ山ニノボリ、空ク歸ルガゴトク、王
 膳ニ逢テ、食フコト能ハザルガ如シ、終イニ菩薩ノ身ヲ失ヒ、三寶ノ緣ヲ失ヒ、一切皆失
 テ、螻蟻蚊虻ノ身トナリ、二劫三劫ニモ、父母ト師僧三寶(45)トノ名字ヲダモ聞カズ、哀ムベ
 シ恨ムベシ、コノユニ有知ノ人ハ、喪身失命ヲモ顧ミズ純一ニ修學スベシ、名利是非ニモ
 拘ラズ、アナガチニ懺悔スベシ、直ニ佛祖ニ向フガコトク、面リ教授師ニ對シテ、至誠ヲ
 盡シ、實語ヲ伸ベ、無始劫來ノ惡業煩惱毫髮ヲモ殘サズ、發露懺悔スベシ、正當此時、佛
 祖ノ證明ヲ得テ、大清淨ヲ得ルナリ、衆罪如_ニ霜露_ニ、慧日能消除スト云入フ_ニモノナリ、
 コノユヘニ古德ノ云、懺悔ハ直指單傳大乘ノ活法ナリ、懺悔ハ山河大地毘廬法身ナリ、懺
 悔ノ當體迷悟不二生佛一枚ナリ、懺悔ノ當體三聚淨戒圓滿ナリ、(47)三千威儀八萬細行具足ナ

(39) 寶曆本「ヒヘ」ト重複スルモ、「ヘ」ニ
 改メル
 (40) 寬政本「ト」ノ字アリ

(41) 寬政本「ヘ」ノ字ナシ

(42) 寬政本「人」ノ字ナシ

(43) 寬政本「善說好緣不可失」ノ語ナシ

(44) 寬政本「ク」ノ字ナシ

(45) 寬政本「ト」ノ字アリ

(46) 寬政本「ノ」ノ字ナシ

(47) 寬政本「ナリト」ニ作ル

リ、知りヌベシ、乃佛乃祖、天神地祇、大ニ感動マシマシテ、讚歎擁護シ玉フモ、タダコ
ノ懺悔ノ法ナリ、懺悔ノ大威徳タル、亦大イナラズヤ、ケダシ一切ノ業界、皆受^テニ妄想^ルニ生
ズルナリ、妄ヨリ妄ヲ生ズ、若シ欲^{セハ}懺悔者、端坐觀^ニ實相^ヲト云、眞實相ノ上ニハ佛モ衆生
モ不二ナリ、罪福何^ノ隔テカアランヤ、⁽⁵⁰⁾

戒源

夫レ諸佛ノ大化ヲ開キ玉フニ、必ズ三無漏ノ學アリ、イワユル戒定慧ナリ、シカモ戒ヲ其
ノ首メトセリ、戒波羅蜜、タダ一種ノミニアラズ、優婆塞ノ五戒アリ、沙彌ノ十戒アリ、
比丘ノ二百五十戒アリ、菩薩ノ五十八戒アリ、道共戒⁽⁵¹⁾アリ、修道ニ供ス、定共戒⁽⁵¹⁾アリ、
毘尼母論ノ三語受戒アリ、^{三歸}シカアリテ、佛祖ノ受持シ玉フ、一轍ニアラズ、イワユ

ナリ

ル諸宗區分シテ、聲聞戒、菩薩戒、授受ノ軌則、[※]差異發心、受體隨行ノ區別、種種様様ア
リトイヘドモ、我禪家室内、洞濟一轍ニ單傳スル所、十六事條ノ禪戒儀⁽⁵²⁾ノ如キハ、天竺廿
八師、震旦歷[※]師資面授來、室内所傳大戒ニテ、經論家ノ判評ニハ全ク落チズ、今日マデ二
千七百年頃、一人一人受授シ來底、聊モ紙墨ヲカラズ、口誦親切ノ傳來ナリ、尤モ經論家
ニテ云ヘバ、直ニ是蓮華臺上、金口直軌ニシテ、佛佛祖祖、三世ノ恒式、イワユル達磨大
師所傳ノ一乘戒ナリ、此ノ^ノ傳戒ノ十六條ハ、乃チ梵網瓔珞ノ所說ニ幸ニ符合スルナ
リ、アル人ノ云ク、古來ノ禪史諸典、⁽⁵⁴⁾出家受具トハカキテアレドモ、室内所傳ノ來由、イ
チヂルシカラザレバ、室内ノ禪戒トイヘルコト、未審シ思フモノアリ、是ノ^ノ門外ノ游
子ニシテ、正傳ヲ知ラザルナリ、夫レ佛祖ノ嫡嫡面授セル心地ノ相承ナレバ、紙墨ニアラ

(48) 寛政本「モ」ノ字ナシ

(49) 寛政本「一切業障海、皆從ニ妄想」ニ作ル

(50) 寛政本「カ」ノ字ナシ

(51) 寛政本「修道ニ供ス」ノ文、割注ニ出ス

※ 寛政本「授受ノ軌則差異、發心受體隨行ノ區別」ニ読ム

(52) 寛政本「儀」ノ字ナシ

※ 寛政本「歷代」ニ作ル

(53) 寛政本「ニ」ノ字ナシ

(54) 寛政本「ニ」ノ字アリ

ワレズトテ、疑ヒヲナスベシヤ、凡ハソノ拈華微笑、以心傳心ノ上ヘ、微妙法門、承嗣ユヘ、⁽⁵⁵⁾
 戒、相傳其隨一ナリ、傳法ト云ヘバ、一切ノ法コトゴトク具足ナレバ、戒ヲ分テ記録ナク、⁽⁵⁶⁾
 サレドモ末世ニナリテハ、品品區區分レテ、傳法傳戒傳衣ナドハ、史典ニモ書露セリ、凡⁽⁵⁷⁾
 ソ傳燈錄等タダ向上ノ提唱ヲ録シテ、行事ノ跡ヲ略セリ、行事ヲ略セルユヘ、此ハノ戒⁽⁵⁸⁾
 ノ相承ノ名目著ル、シカラザレドモ、此ハノ戒ノ發揚ハ、彼ノ提唱ニアラハレリ、試ニ⁽⁵⁹⁾
 ソノ一二ヲ舉サン、六祖云、心地無非爲自性戒、洞山云、擬心是犯戒、カクノゴトキノ⁽⁶⁰⁾
 指示ハ、正シク禪戒ノ妙體ナリ、シカノミナラズ、柏樹子、麻三斤、德山ノ棒、臨濟ノ喝⁽⁶¹⁾
 ハ、此ノ戒ノ消息ナリ、ココニシリヌ、傳燈ノ祖師、一言一句、皆此一乘戒ノ妙用ニア⁽⁶²⁾
 ラザルコトナキナリ、且ハツ此ノ一乘戒、傍受ノ證據ヲ舉ゲ示シテ、以テ汝ノ疑ヲ解カ⁽⁶³⁾
 ン、昔シ叡山ノ傳教大師生年十三ニシテ、其師行表和尙ニ、金光明寺ニ投ジテ得度シ、乃⁽⁶⁴⁾
 チ達磨ノ一乘戒ヲ受ク、ケダシ行表ハ其ノ師道璿ニ受ク、璿ハ唐ノ普寂ニ受ク、寂ハ北宗⁽⁶⁵⁾
 神秀大師ニ受ケタリ、傳教ソノ後、入唐受學、マサニ天臺ノ宗脈ヲ傳ヘ、旁ラ馬祖ノ法嗣⁽⁶⁶⁾
 天臺山禪林寺ノ脩然和尙ニ見ヘテ、亦達磨ノ心戒ヲ受ケ、スデニシテ歸朝ノ後、内證佛法⁽⁶⁷⁾
 相承血脈譜一卷ヲ製シテ、其ノ首メニ、乃チ達磨西來ノ相承ヲ聯綿セリ、コトニ其ノ法眼⁽⁶⁸⁾
 ヲメグラシテ、日本唯大乘ノ山ヲ建テ、菩薩圓頓ノ大戒壇ヲ立テンコトヲ願ヒ玉ヘドモ、南⁽⁶⁹⁾
 都ノ衆徒ト議論決セズ、漸ク傳教ノ滅後ニ至リ、赦免アリテ、戒壇建立ス、其ノ事詳カニ⁽⁷⁰⁾
 顯戒論及ビ一心戒文ニ見ヘタリ、又一心戒文ハ、傳教ノ弟子光定ノ作り玉フナリ、ソノ中⁽⁷¹⁾
 卷ニ云、傳戒師資相承ノ事者、從南天竺ニ至リ日本、南天竺ノ王第三ノ王子菩提磨老和尙、⁽⁷²⁾

(55) 寛政本「ベケンヤ」ニ作ル

(56) 寛政本「ノ嗣承」ニ作ル

(57) 寛政本「ゴ」ノ字ナシ

(58) 寛政本「ト」ニ作ル

(59) 寛政本假名書キニ作ル

(60) 寛政本「ラ」ノ字ナシ

(61) 寛政本「タリ」ニ作ル

(62) 寛政本「從南天竺ニ至リ日本」ニ作ル

(63) 寛政本「達磨」ニ作り、「老和尙」ノ語ナシ

一乘之戒ヲ受ニ優婆堀ニ至ニ漢地ニ云云、又下卷ニ云、有三天竺ノ付戒二十八師、彼第廿八師
 菩提達磨、持ニ一乘戒、遊ニ來漢魏、又傳法護國論ト云ハフ、書アリ、コレ臺宗ノ徒、虎關ノ宗
 門十勝論ヲ破シテ、作レル所ノ書ナリ、其ハノ、中ニ云、達磨ノ戒法、馬祖道一弟子脩然和
 尚、所レ授ニ叡山ニ也、古本猶在焉、可レ疑乎、又云、又有ニ菩提達磨受戒ノ法、慧能、懷讓、
 道一、脩然次第相付、叡山大師受ニ之、然公、傳ニ山家光定長意、師師傳受展轉至レ今、禪衆皆
 所レ不レ傳尚暗ニ汝祖之近制、コレスナハチ、我ガ禪門、天竺ノ二十八祖、震旦南宗北宗ノ祖
 祖室內嫡傳スルトコロ、一乘心地戒ノ明證の據ナルナリ、今更ニ洞濟一轍ノ傳受ヲ明サン、
 昔シ宋ノ末、榮西和尚、法ヲ黃龍派下虛庵徹ニ受ケ、并ニ其ノ禪戒ヲ傳フ、ソノ事、護國
 論、元享釋書等ニノスルトコロ分明ナリ、釋書榮西傳云、先レ是在ニ萬年一日、徹語曰、菩
 薩戒ハ禪門ノ一大事也、汝航レ海來問ニ禪於我、因而付レ之、又西云、我禪門者非ニ特今始有
 之、昔叡山傳教大師製ニ内證佛法相承血脈譜一卷、其初乃我達磨西來之禪法也、又虎關和
 尚禪戒軌序曰、昔者達磨自ニ南印度、帶ニ佛心印、入ニ支那、直指單傳峭絕巉岩然以ニ菩薩戒
 并授ニ三祖、爾來五家七宗不レ輟ニ授受、予見ニ諸家戒系譜名、不ニ連屬、只我禪戒自ニ佛世尊
 至レ今時、繩繩不レ絶ニ一人ニ故、諸戒法、此戒爲レ最云云、寛保マデニ四百年餘(68) 正中二年中秋日虎關某序、又天
 龍夢窓國師於ニ西方精舍、傳ニ受碧潭和尚、戒法是亦三歸十重禁也、已上委クハ、諸回向清
 規ニ見ヘタリ、榮西ノ後、我永平祖師、入宋法ヲ天童ノ淨和尚ニ受テ、又其ノ禪戒ヲ傳
 フ、榮西ノ所傳ト一般ナリ、法燈國師年譜中ニ受ニ菩薩戒ヲ於深草佛法上人ニ乃天童所傳戒
 儀者是也、コレ乃ハチ、(70) 聖一國師受授禪戒、其年譜ニ分明ナリ、乃ハチ、一乘戒ノ相傳、

(64) 寛政本「ノ」ノ字ナシ
 (65) 寛政本「第」ノ字ナシ

(66) 寛政本「道」ノ字ナシ

※ 寛政本「轉」ノ字ナシ

(67) 寛政本「近」ノ字ナシ

(68) 寛政本本文ニ出ス

(69) 寛政本「一」ニ作ル

(70) 寛政本「コレ乃」ノ字ナシ

洞濟一轍ノ明證ナリ、シカルニ元朝以來、中華ノ禪林、ケダシ其ノ儀則ヲ失スルニ似タリ、又此ノ方ニオイテモ、コレヤヤ衰廢セリ、榮西ノ所傳代代相傳ハル、其ノ血脈イマ尙ヲ存スト聞エ、タダ永平門下歷代相承シテ失ハズ、シカレドモ中古亂世ヲ經テヨリ、寛文頃マデ、血脈ハ授受アリトイヘドモ、登壇傳授ノ眞儀オコナワレズ、譬ヘバ告朔ノ餼半アリテ、ソノ禮具ラザルガゴトシ、茲ニ我ガ師翁月老和尚アリテ願力ニ乗ジテ、出テ勉メテ古道ヲ復セント欲スル砌ハリ、幸ハニ大乗ニ住シ、又天童傳來ノ舊儀ヲ大乗室内ニ正傳セリ、ケダシソノ比ロマデハ、諸派一統ニ古儀ヲ失ヒ、傳戒傳法ノ規分タズ、三物一束ニ授受セリ、唯ダ大乘室内ノミニ古傳ヲ失セズ、傳戒ノ式アリ、傳法ノ儀アリ、歷代ノ師資、弘演シ來レリ、ココニオヒテ、月祖乃チ戒儀ノ遺法ヲ探リ、重テ羯磨ヲ起シ、羯磨ノ墜緒ヲ尋テ、幽眇ヲ張皇セリ、シカレドモ時機イマダ到ラズ、諸人疑信アヒ半バナリ、先師已老人ソノ統ヲウケテヨリ、大ニ戒網ヲ布ケリ、住山ノ冬ヨリ、始テ戒會ヲ建テ、授受ヲ講ゼリ、四方風ニ靡ヒテ、化ニ俗スルモノハナハダ多シ、ステニ今日ニ至テ六十年來、諸方一同宗門ノ戒法ヲ弘道スルコト、亦大益ナラズヤ、是ハノ故ニ老祖先師ハ宗門戒ニオイテモ、中興ト稱スルアリ、コレ黨言ニアラズ、乃チ公論ナリ、夫レ大乘室内ノ戒本ハ、マサシク天童所傳ノ舊儀ニテ、永平大慈兩刹室中ノ戒本ト合シテ、一律ナリ、ソノ外大小ノ古刹、亦皆祕在セリ、小異アリト雖ヘドモ、大同ナルナリ、ソノ授受ノ作法、甚ダコレ希有不可思議ナリ、シカレドモ、今此戒子、皆此門ノ人師ニテ、亦此ハノ正傳ノ式ニヨリテ、傳授スルコト甚ハダ難値難遇ノ事ナレバ、此ノ戒會、弘大ノ幸、非言所盡ユヘ、歡

(71) 寛政本「登壇ノ儀」ニ作ル

(72) 寛政本「又」ノ字ナシ

(73) 寛政本「ニ」ノ字ナシ

(74) 寛政本「祖翁」ニ作ル

(75) 寛政本「津」ニ作ル

(76) 寛政本「シカシ」ニ作ル

(77) 寛政本「ヨツテ」ニ作ル

(78) 寛政本「トハ」ニ作ル

(79) 寛政本「ナリ」ノ語アリ

喜精進シテ、誠ヲ傾クベシ、

戒體

大凡教家ハ所依ノ經律アリテ、其ノ門戸ヲ建立ス、獨リ宗門ノ如キハ、一經ノ依憑ナク、唯ダ佛意ヲムカヘテ、金文ヲ取り、算沙家判教ノ局網ヲ張ラズ、ホシヒママニ般若ノ智劍ヲ揮フ、彼ノ佛祖ノ傳戒ノ如キ、嫡嫡相承シテ、金口ノ直軌、梵網瓔珞ニ取ルモノナリ、別ニ構造修飾スルトコロナシ、サキニ一一辨ズルガ如シ、

三歸戒 南無歸依佛、南無歸依法、南無歸依僧、南無ハ梵語ナリ、此ニハ歸命ト云、シカ

(80) 寛政本「ト」ノ字ナシ

レバ南無歸依トハ、語重サナルニアラズヤ、コレ我家ノ傳來如レ此唱フルナリ、モトモ華梵同ク稱スル例多シ、摩訶伽羅大黒ノ如シ、夫レ三寶ニ三種ノ功德アリ、イワユル一體三寶、現前三寶、住持三寶ナリ、阿耨菩提ヲ稱シテ、佛寶トシ、清淨ニシテ塵垢ヲ離ルルハ、乃チ法寶ナリ、和合スル功德ハ、コレ僧寶ナリ、是ヲ一體三寶ト名ク、現前ニ菩提心ヲ悟ルヲ、佛寶ト名ケ、佛ノ證シ玉フ所ハ、是ハレ法寶ナリ、佛法ヲ學ブハ、乃チ僧寶ナリ、是ヲ現前三寶ト名ク、人間ヲ化シ、天上ヲ度シ、虚空ニ現ジ、微塵ニ入ルハ、乃ハチ佛寶ナリ、一切ノ經論ヲ轉讀シ、衆生ヲ化益スルハ、是レ法寶ナリ、一切ノ苦ヲ度シ、三界ノ宅ヲ脱スルハ、乃チ僧寶ナリ、是ハレ住持三寶ト名ク、カクノゴトク三種ノ功德ヲ具スルユヘ、コレ三歸ハ一切戒ノ根本ニシテ、戒體發得ノ羯磨ナリ、コノユヘニ、三世ノ諸佛、歴代祖師、大法雨ヲ雨シ、大法幢ヲ建ツハ、盡ク是レ三歸ノ功德ナリ、納僧門下、三十二年、行脚苦辛シテ、些子ヲ得ルモ、亦此三歸ノ光明ナリ、一惑未斷ノ凡夫、無性ノ闡提人

(81) 寛政本「ゴトクニ」ニ作ル

※ 寛政本「三十年」ニ作ル

モ、一念菩薩ノ心ヲ發スレバ、頓ニ三惡道ヲ遁レ、大佛果ヲ成ズルモ、亦此三歸ノ威力ナリ、三歸ハ大日輪ノゴトク、普ク一切ヲ照シテ、高下アルコトナシ、アル時ハ拄杖拂子トナシテ用ヒ、アル時ハ草履鼻紙トナシテ用フ、千差萬別、妙用限りナシ、大ニ方所ヲ絶シ、細ニ無間ニ入ルナリ、文殊大士昔シ母胎ニ在リシ時、母胎子ノ爲ニ三歸戒ヲ受ク、シカシヨリコノカタ、文殊生生世世大智慧ヲ具シテ、諸佛ノ師トナリ玉フトナリ、歸依佛ノ時、一釋迦一彌陀ニカラズ、過去未來現在、十方一切ノ諸佛ニ歸命シ奉ルナリ、歸依法ノ時、一法華一華嚴ニカギラズ、三世十方一切ノ諸法ニ歸命シ奉ルナリ、歸依僧ノ時、一菩薩一北丘ニカギラズ、三世十方古今一切ノ賢聖僧ニ歸命シ奉ルナリ、コノユヘニ佛ヶ珠數ヲ教ヘテ、凡聖一等、常ニ三寶ノ名字ヲ唱ヘサセ玉フナリ、コレ乃チ孝順三寶ナリ、孝名爲戒ナルナリ、

(82) 寛政本「発シ」ニ作ル

※ 寛政本「カギラズ」ニ作ル、實曆本ノ脱字カ

(83) 寛政本「ナ」ノ字ナシ

三聚戒 夫レ上ニ告ル如ク、四七二三ヨリ今日マデ、嫡嫡相承ノ戒、亦能經論ノ本旨ニ契入フコト、尙尙不可思議ナレ、大乘ノ中、權實顯密、其ノコトナシ、趣異ナルコトアリトイヘドモ、菩薩ノ通受ハ、皆此ノ三聚戒ニ依ラズト云コトナシ、三聚ニ二類アリ、一ニハ瑜伽論唯識論ニ明ス所ノ三聚ノ中、攝律儀ノ一戒ハ、局ツテ聲聞七衆ノ毘奈耶ヲ指スナリ、七衆トハ比丘比丘尼、優婆塞優婆夷、沙彌沙彌尼、色叉摩那ナリ、唐ノ玄奘、日本ノ興正、大悲皆此ノ瑜伽三聚自誓ノ羯磨ヲ秉持シテ、其隨行ハ全ク聲聞戒ノ律儀ニ依ルナリ、二ニハ瓔珞本業ノ三聚、其ノ攝律儀ハ、イワユル十波羅夷ナリ、瓔珞ノ文ナリ 此レ乃チ我ガ禪戒ノ羯磨ナリト符合セリ、ケダシ此ノ十無盡戒ハ、十重禁 通シテ菩薩戒、聲聞戒、一

(84) 寛政本「ナリ」ニ作ル

(85) 寛政本「一一」ニ作ル

(86) 寛政本「七衆以下色叉摩那ナリ」ノ文、割注ニ出ス

(87) 寛政本「彼ノ唐」ニ作ル

(88) 寛政本「ナリ」ノ字ナシ

切ノ律儀ヲ攝シテ、用ヲ待テノコスコトナシ、是ハノ▽故ニ我禪專ラ此ハノ▽瓔珞ノ三聚ヲ秉シテ、其ノ隨行ニ至テハ、博約折中シテ、大小乘ニ異ナラズ、明頭來也、明頭打ナリ、暗頭來也、暗頭打也、四方八面來也、四方八面打ナリ、百丈大智禪師ノ大小乘ニ不局、博約折中、是ハレ▽清規ノ骨目也

第一攝律儀戒 夫レ三世諸佛ノ法ハ、戒律威儀ヲ以テ行持ス、此一戒二十無盡、一切ノ律儀ヲ攝ス、乃ハチ▽諸佛法律ノ根源ナリ、諸佛法律ノ窟宅ナリ、衲僧ノ鼻孔睛睛ナリ、自己ノ禪板蒲團ナリ、若シ此戒ヲ離レテハ、佛子ノ立所ナシ、佛ノイワユル佛子戒律ヲ守ルコトハ、聲聞草繫ノ比丘ノ如クセヨト、是レ持律ノ様子ヲ示シ玉ヘリ、モシ大事ヲ修行スル人、威儀外相ヲ輕忽セバ、是レ佛祖ヲ欺キ、自己ヲ昧スナリ、或ハ千萬人ノ内、一箇半箇、格外ノ作略アリテ、戒律ニ違スルニ似タルヲ以テ、我が不律ニ引合スルハ、大ナル過ナリ、其人ハ持犯ノ軌轍ニアヅカラズシテ、能ク眞正ノ護持ヲ了スルモノ、常情ノ測度スル所ニアラズ、叢林安居、規行矩步、合掌問訊、者箇一段ノ正法眼藏ナリ、正法眼藏ノ外ニ威儀ナク、威儀ノ外ニ正法眼藏ナシ、譬ヘバ櫻木ヲ打ハチ▽ワリテ、花實ヲ求ルハ、此ノ處リナキガ如シ、威儀細行、全體左右、法ニ法相ナク、律ニ律縛ナシ、活卓卓ナリ、赤條條ナリ、

第二攝善法戒 三世歷代、八萬四千ノ法門、三千世界、能行所行ノ妙道、盡ク此ノ一戒ニ攝收スルトキ、能攝所攝、無二無別、乃チ自己本有ノ善法ナリ、此ノ善法取ルコトナク、捨ルコトモナシ、十二時中、玉轉ハジ▽珠回ルナリ、

(89) 寛政本以下ノ文、割注ニ出シ「百丈大智禪師、所謂大小乘不局博約折中一ト、是レ清規ノ骨目ナリ」ニ作ル

(90) 寛政本「ニ」ニ作ル

※ 寛政本「ハ」ニ作ルシ

第三攝衆生戒 又饒益有情戒ト云フ、慈悲喜捨ヲ以テ一切衆生ヲ化度スルナリ、單ノ聲聞戒ニハ、此ノ戒立ハチ▽ガタシ、菩薩ハ此ノ戒ヲ肝要トス、凡ソ人民奴婢畜生ナリトモ、一念菩薩心ヲ發スル、其ノ功德廣大ナリ、佛言譬ヘバ、如下有ニ小摩尼眞珠、勝似精如(91)須彌山、菩薩如レ是初發道心、出過一切聲聞ノ上、又曰猶濁水滿海、不レ如ニ甘露一升也、コノ故ニ菩薩ハ自利ヲ捨テ利他ヲ根本トス、イワユル自未得度先度他ナリ、自未得度先度他ハ、同時即證ノ頓教ノ位ナリ、菩薩ト衆生ト同時ニ成道スルナリ、攝大乘論曰、云何知ニ菩薩學處與ニ聲聞差別、言ニ品類差別ニ者、聲聞唯有ニ一守護戒、無ニ攝善法戒及利益衆生戒、共不共學處戒者、於レ中性罪、謂殺生等爲レ共、掘地斷草等制罪、是不共、此後學處於ニ聲聞ニ有レ罪、菩薩無罪、如ニ聲聞ニ於ニ夏中行、是犯、菩薩見レ有ニ衆生利益事ニ去、是犯、又曰於ニ學處、有ニ聲聞犯菩薩不犯、有ニ菩薩犯聲聞不犯、有ニ身語心戒、聲聞唯有ニ身語二戒、是故菩薩心亦有レ犯、非ニ諸聲聞、以レ要言レ之、一切饒益有情無レ罪、身語意業菩薩、一切皆應ニ現行、皆應ニ修學、又菩薩戒品宗要云、如ニ瑜伽說、善權方便爲ニ利他ニ故、於ニ諸性罪、少分現行、而無ニ所犯、反生ニ功德、又如ニ契經言、菩薩知下以ニ破戒因緣、令人受ニ持愛上樂大乘、則得レ破レ戒、菩薩爾時應レ作ニ此念、我寧一却苦滅、一却墮ニ無間獄、受ニ此罪報、要レ令ニ是人不ニ退菩提、文殊白レ佛言、爲ニ此毀戒、墮ニ阿鼻獄、無レ有ニ此處、佛讚ニ善哉、コレ大菩薩ノ人、有情ヲ饒益スルノ様子ナリ、自利ノ念ナキトキ、自他ノ隔テナク、左之右之一枚ノ大菩薩心ナリ、正當恁麼ノ時、凡聖ヲ超越スルナリ、自他ヲ度脫スルナリ、古德云、又菩薩戒ニハ、三重ノ道理アルベシ、一ニハ云、位同大覺了眞ニ是ハレ▽諸佛子ナリト云、

(91) 寬政本「精」ノ上ニ「水」ノ字アリ

(92) 寬政本「菩薩具有」ニ作ル

故ニニニ云、聲聞ノ持戒ハ菩薩ノ破戒ヨリモ劣也、聲聞ハ自調自度ト云、菩薩ハ自未得度先

度他ト云、次ニ三云、一分受二分受也、此ノ戒ハ一ヲモ受スレバ、永不失也、至未來際ニ不

失、必可ニ成佛也、此ノ分ハ一分モ十分モ百分モ只同時也ト、可ニ心得ニナリ、聲聞戒ニハ

分受ナシ、具足シテ受ク故ニ、具足戒ト云、右三聚ノ中、律儀戒ト善法戒トハ、自利ナ

リ、攝衆生ハ利他ナリ、夫レ此ノ道ヲ修行シテ、佛祖ヲ疑ハズ、自悟自得スルヲ、自利ト云

ハフ、此ノ自利ヲ得ルトキ、早ク利他ヲ具ス、我が如ク一切ヲ化シ、菩薩ヲ得セシメントス

ルヲ、利他ト云ハフ、此ノ利他ヲ專ハラニスルトキ、即自利ナリ、自他畢竟無二無別ナ

リ、カクノゴトク自利利他ノ大願ヲ決定スルヲ、大菩提心ト云ハフ、苟モ此菩薩心ヲ具ス

ル人ハ、イカナル身賤ク、位劣ナリトモ、眞ニ大菩薩ナリ、タトヒ天地ヲ動シ、光明ヲ放

ハチ、大福德アリテ、人天尊崇スルトモ、此ノ菩提心ナクンバ、乃チ邪見凡夫ナリ、是

故ニ一切ノ佛子、先ヅ此ノ菩提心ヲ決定シテ、菩薩戒ヲ持チ而四弘誓願ヲ發スベシ、イワ

ユル衆生無邊誓願度、煩惱無盡誓斷、法門無量誓願學、佛道無上誓願成ナリ、モン或ハ我

等ハ愚昧凡劣ニシテ、如レ是ノ大心ヲ成ジガタシト思フ一念起ラバ、我ト我が珠ヲ泥中ニ

投ズルガ如ク、淺間繫凡夫外道ナリ、衲僧門下カリソメニモ、アルマジキコトナリ、苟ク

モ一念大心ヲ起ス時、佛祖ニ羞ヂズ、自己ノ光明、蓋天蓋地ナリ、右三歸三聚ヲ以テ、菩

薩ノ根本戒體トス、イワユル三寶ニ孝順シ、歸命スルト、三聚ノ自利利他ナリ、佛言、初

結菩薩波羅提木叉、孝順父母師僧三寶、孝順至道之法、孝名爲戒、亦名制シカアレ

バ孝順慈忠ヲ以テ、菩薩戒ノ根體トス、ソレ父母ノ恩、天地ノ如シ、能ク我ヲ生育ス、君

(93) 寛政本「ニ」ニ作ル

(94) 寛政本「時」ニ作ル

(95) 寛政本「ノ」ノ字ナシ
(96) 寛政本「戒」ノ字ナシ

(97) 寛政本「ト」ノ字ナシ

(98) 寛政本「他」ノ字ナシ

主ノ恩、山海ニ似タリ、能ク我ヲ容レ受ク、師僧ノ恩ハ雲雨ノ如シ、能ク我ヲ潤澤ス、三寶ノ恩ハ日月ニ似タリ、能ク我ヲ開明ス、コノ故ニ出家在家、常ニ三寶師僧君主父母ニ於テ、モトモ孝順慈忠ヲ勵ムベシ、孝順慈忠ヨクソロヘバ、三歸三聚、自然ニ具足ス、乃至十無盡、一切ノ法戒成立セズト云ハフコトナシ、

(99) 寛政本「重」ニ作ル

十重戒 此ノ十種ハ、三聚戒體ヨリ分出スル至極ノ重禁ナリ、瓔珞ニイワユル攝律儀ハ十波羅夷也ト、乃ハチ是ナリ、波羅夷此ニハ他勝處ト云ハフ、他ノ惡法ニ勝ルユヘ、又斷頭ト云ハフ、皆重禁ナリ、此ノ十重ヨリ、又四十八輕、二百五十、五百、及ハビ三千威儀、八萬細行ヲ分出セリ、然レバ此ノ十條ハ、佛門制戒ノ大條目ユヘ、三聚戒體具足ノ上ヘ、亦此ノ十相ヲ説テ、堅ク護持ヲ勸ムルナリ、一戒ノ中、品品アリテ、ソレヲソロヘテ、犯ズレバ重トナル、亦輕戒モカルシト思ヒ、ユダンアレバ、ソノママ重トナル、水滴雖微、漸盈ニ大器ノ如シ、シカレバ輕重畢竟同斷ニテ、可慎ナリ、我門傳來ノ戒儀ニハ、十條共ニ不ノ字ヲ付テ、強ク禁ズ、又不ノ一字、正法眼藏ナリ、此ノ正法眼ヲ具スルトキ、十重乃ハチ一乘ナリ、一戒光明ナリ、一句ナリ、破草鞋ナリ、中道第一義諦心念念寂滅入ニ萬法明門ナリ、

(100) 寛政本「キビシキ」ニ作ル

第一不殺生 經曰ニ快意殺生、若佛子、若自殺教人殺、方便殺讚歎、見作隨喜、乃至咒殺、殺因殺緣殺業殺法、乃至我ニ害ヲ成シ、人ニ害ヲ成スモノ、及ビ小形者、魚鳥禽獸、一切有命者、不_レ得_ニ故殺_ハ、凡ソ三千界ニモカヘザルハ、我命ナリ、然ルヲ小形ナリトテ、輕ク殺シ、又我ガ口腹一時ノ味ヲ貧テ、其ノ命ヲ斷ジ、又當座ノ慰ミニ物命ヲ害スルハ、

(101) 寛政本「方便殺、讚歎殺」ニ作ル

至極ノ不仁大惡ナリ、大將大名等、無益ノ殺生ヲ禁ズルコト、古今多シ、是菩薩應下起^{シテ}常住慈悲心孝順心、方便救護^ス、而反更^ニ、自恣心快意殺生^{スルハ}、是菩薩婆羅夷罪、波羅夷ハ斷頭罪、

聲聞戒ニハ人ヲ殺スヲ犯ト立^{ハツ}レドモ、菩薩ハ一切有命者、不^レ得^ニ故殺^ハ、殺ス當體ト

心ヲ起ス當體皆犯ナリ、聲聞ハ殺スヲ犯トスレドモ、菩薩ハ心ヲ起スモ亦犯ナリ、比丘一

切不^レ得^ニ肉食^{スルコト}、肉食絶^ハ慈悲種^ニ故ナリ、在家菩薩ハ、肉食ヲ開スルワケアリ、淨肉ノ儀ア

リ、ワケアリ凡ソ今世ニ短命夭死ハ、決シテ過去殺生ノ業感ナリ、今世ニ物命ヲ救護シ

テ、長壽多福ヲ得ルコト、古今其ノ例多シ、畢竟一命ヲ殺シテハ、一命ヲ以テ償フ、至テ

恐ルベシ、又王臣宰官ノ國家ヲ治メ玉フニ、惡人ヲ治罰シテ、善人ヲ褒賞セリ、攝大乘論

ニイワユル、菩薩以^ニ如^キ是等方便善巧^ヲ、行^ニ殺生等十種惡業^ヲ、然不^レ得^レ罪生^ニ無量福^ハ、證^ス

阿耨菩提^ハ、乃至或爲^リ國王^ト、顯^示種種遍^ニ惱衆生^ニ事^ト、以^テ是立^ス衆生律行中^ニ、コレ大慈悲ノ

心ヲ以テ、大惡ヲ殺伐シ、萬民ヲ安ラクスルトキ、乃^ハチ^ハ大菩薩ノ行ナリ、若^シ亦

ハタ^ハ罪人ヲ惡ム心ヲ以テ殺シ、或ハ私ノ怨ヲ以テ罰シ、或ハ不吟味ニテ輕キヲ重クスル

等ハ、地獄ノ業因ニテ、至極ノ大罪ナリ、コノユヘニ、國家一ノ罪人ヲモ種種御吟味ア

リ、三宥ノ禮、行ハレテ當罪ヲ刑^シ玉フ、乃チ佛菩薩ノ慈悲心ニ符合セリ、若^シ亦^ハ此ノ

賞罰^{ナキ}時ハ、天下一日モ立ガタシ、モトモ佛子行道安穩ナルハ、國恩護法ニ依レバナリ、

我宗ニテ、利アラバ行ゼヨト云^フコト、菩薩ノ當用ナリ、此ノ訣ヲ得心ナケレバ、宗

乘ノ擧揚成ナリガタシ、モシ不得意ナレバ、却テ大罪ヲ得ルナリ、

第二不偷盜 經曰^ニ却盜人物戒^ハ、若佛子自盜、教^ニ人盜、方便盜、咒盜、盜因盜緣盜法盜業、

(102) 「ワケアリ」ノ文不用カ

(103) 寬政本「立」ノ上ニ「成」ノ字アリ

(104) 寬政本「科」ニ作ル

(105) 寬政本「罪」ニ作ル

(106) 寬政本「テ」ノ字ナン

乃至鬼神、寺院ノ祠堂物、神明業祠等物、有主、

人物ニカギラズ、一切主シアル物ヲ云

畜生物、

(107) コレモ役人ノ心ニテ、此ノ馬此ノ犬ノ物、此ノ猫此ノ鳥ノ物ト具ヘツクレバ早ヤソレゾレ

ニ定ルユヘ、取リカヘ、

劫賊物

コレモ前キニ盜取ル、早ヤ我物ニシタルヲ、亦取カヘストキハ、却テ盜ムナリ

一切財物、一針一草、不得盜

盜、而菩薩應下佛性孝順心慈悲心生ジテ、常助一切人、生福生樂、而反更盜人財物、

是菩薩波羅夷罪、

聲聞戒ニハ五錢以上ヲ重トス、盜取ルヲ犯トス、菩薩戒ニハ、一念盜心

起ルヲ犯トス、又佛家ニ三寶物ヲ互用シ、我物ノゴトク心易ク取リヤリスルヲ、大罪トス、

シカレドモ衆僧和合ノ上ハ、互用ノ訣モ開シテアリ、トカク至テ大切ニ心用ユベシ、古徳

常住物ヲ視ルコト、鳩毒ノ如シ、知事ノ人、纔ニ露著スルトキハ、身命ヲ喪スト示シ玉ヘ

リ、又雲蓋火枷ノ報アリ、懼レザルベケンヤ、

第三不貪姪 經曰ニ無慈行欲戒、若佛子自姪、教人姪、乃至一切女人、不得故姪、姪因姪、

緣姪法姪業、乃至畜生女、諸天鬼神女、及非道行姪、

塔廟境社ノ中ニテ行姪、又非時ニ行姪スルヲ云

等、而菩薩應下生ニ教順心、救ニ度一切衆生、淨法與人、而反更起一

切人姪、不擇畜生乃至母女姉妹六親、行姪無慈悲心、是菩薩波羅夷罪、此戒在家ノ菩

薩ハ、正姪ヲ開シテ、邪姪ヲ制ス、出家ハ開ナク、男女ノ色共ニ堅ク禁ズ、モトモ僧ニ女

犯アレバ、官制ニモ許サズ、女犯肉食却盜ハ僧ノ三條罪トテ、世出世共立ガタシ、凡ソ此

ノ戒ハ、老弱共ニ甚ダ慎ムベシ、溺レヤスキハ、愛欲ノ境ナリ、イワユル姪ヲ行ジテ、禪

定ヲ修シ、智慧ヲ明カニセントスルハ、沙ヲ蒸シテ飯トナスガ如シ、勞シテ功ナシ、然レ

バ修行ノ人第一ノ公案ナリ、容易ニスルコトナカレ、此ノ戒ヲ護持スルニハ、緣ヲ避ルニ

シクハナシ、佛ノ誠メ玉フニ室ヲ隔テテ、是男是女ト、分別スルコトナカレトナリ、モト

(107) 寛政本割注「此ノ猫」ノ文ヨリ「具ヘツクレバ、早ヤクソレニ定ルユヘ取リ、此ノ鳥ノ物ト取リカヘセバ、盜ニナルナリ」ニ作ル「早ヤクソレ」ノ「ク」ノ校注(タカ)ハ誤ナリ

(108) 寛政本「スアレドモ」ニ作ル

(109) 寛政本「心ヲ」ニ作ル

(110) 寛政本「ヤ」ノ次ニ「、又不打」法器食盜法ナリ、又山林草木之下ニ、無人則

拍手三ビ告テ後食之、」ノ文アリ

(111) 寛政本コノ段テ上卷ノ終リトス

(112) 寛政本割注「女ノ一ヲ」ニ續イテ「ス、邪マナル行姪、又塔廟堂ノ除テ外ハ、皆

ナ非道姪ナリ、又妻ニアラ」ニテ行姪、又非時ニ行姪スルヲ曰ナリ」ニ作ル

(113) 寛政本「イワユル」ニ續イテ「行姪ノトキ、三學共ニ不成、戒スデニ破ルガ故ニ、定慧共ニナラズ、」ノ文アリ

モ沙門ハ、獨リ行脚スベカラズ、在家男女へ親近スベカラズ、遊所戲場ニ徘徊スベカラズ、我心碍リナシトテ、ワザト男女ニ昵近シ、惡所ニ徘徊スルハ、⁽¹¹⁴⁾大惡見ナリ、度ビカサナレバ、自然ト覺ヘズ、見聞ニ墮シテ、其ノ身ヲ誤ルナリ、尼衆ハ此ノ戒、尙更大切ナリ、聲聞戒ニハ、細ニ分チ五百戒アリ、微細ニ護持用心セザレバ、本色清淨ノ尼衆トハ云ヒガタシ、形ハ三衣ヲ付ヘケ、心ハ染欲ニアルコト、至テ恐ルベシ、形ヲカヘテ自他ヲ欺ンヨリ、本ノ在家ニアルトキハ、此ノ咎ナシ、凡ソ此戒ヲ犯ズレバ、ソレヨリ無量ノ惡作增長セリ、一念惡起ルトキ、直下ニ截斷スレバ、惡念アト形ナケレドモ、起ルト我モ不覺ツグモノナリ、ツゲバ忽チ長ジテ、生生ノ惡種トナリ、自他ヲ損セリ、然レバ聲色裏ニ安眠シテ、自在ヲ得ルトテ、自許スベカラズ、自在ナル上ヘテ至テ慎ムガ佛ノ心ナリ、況ヤ壯年ノ人、信心アリテモ、牛角クノ如シ、堅固ニ見ユレドモ、假リソメノ時緣ニテ、早ヤ落ルモノナリ、

第四不妄語 經曰⁽¹¹⁶⁾ニ故心妄語戒ハ、コトサラニ心ヲ設ケ、僞リ人ノ害ヲナスヲ禁ズ、若佛子⁽¹¹⁶⁾自妄語、教⁽¹¹⁶⁾人妄語、妄語因、妄語緣、妄語法、妄語業、乃至不見言見、見言不見、身心妄語、中ニモ佛法ニ於テ不會ヲ會ト云、聖果ヲ得ザルヲ得タト云、妄語ヲ以テ他ヲ損シ、我慢嫉妬人我邪見邪推ヲ以テ、他ヲ妨ゲ、害ヲ成ス、此ノ三條ハ、別シテ重罪ナリ、又心ノ妄語、口ノ妄語、身心ノ妄語アリ、心ノ妄語トハ、人來テ云、公ハ大悟スト聞ク時ニ、我心ニ思フニ、我レ實ニ不悟ナリ、アリノママニ不悟ト云ハバ、彼ガ心ニハ、實ハ悟レドモ、謙退シテ、不悟ト云フコト、却テ能ク思フベシト思ヒテ、我實ニ不悟ト云ハフ等

(114) 寛政本「ニ」ノ字ナシ
寛政本「ト」ニ作ル

(116) 寛政本「身心妄語中ニモ、」ニ讀ム
※ 寛政本「ル」ニ作ル

ナリ、妄心ヲ以テアヤトリ、ウソヲ云フヲ禁ズ、菩薩常生^{ハニシ}正語正見^ヲ、亦生^{セシムハ}衆生正語正見^ニ、
 而反更起^{ルヲテニサシムルハ}一切衆生邪語邪見邪業^ヲ、是菩薩波羅夷罪^{ナリ}、此戒利他爲^レ、方便妄語ヲバ開ス、
 或ハ人ヲ殺ントテ追カケ來リ、汝知レリヤト問フ時、知ルトイヘドモ、知ラズト答ルガ如
 シ、人ヲ救護スルノ妄語ハ罪ナシ、却テ功德ヲ得ルナリ、右ノ四重ハ佛法ノミ禁ズルニア
 ラズ、王法ニモ又禁ズルユヘ、王戒ト云ナリ、其ノノ中人ヲ殺スト、五錢以上ヲ盜ム
 ト、禪ヲ會シ果ヲ得ルト、妄語スルト、姪欲ヲ犯スルト、此レヲ小乗ノ四重トス、又一切有
 命者ヲ殺スト、一針一草ヲ盜ムト、姪欲ヲ犯スルト、一切心ニ違テ語ヲ出スト、此ヲ菩薩
 ノ四重トス、菩薩比丘ニ聲聞ニ共スルユヘ、小乗ノ四重ヲ犯スレバ、其ノ人現世ニ比丘戒
 ヲ受ルコトヲ得ズ、總ジテ一ノ戒、其ノ詞同ノトイヘドモ、持テル心ニ依テ、大小
 乘懸ニ殊異アルベシ、第一殺生ト云ハフモ、業道ヲ恐ル故ニ、受クレバ小乗ノ心地ナ
 リ、慈悲ニツイテ持スレバ、菩薩戒佛戒トイワルナリ、
 第五不酤酒 經曰^{ニハ}酤酒生罪戒^ト、若佛子自酤酒^シ教人酤酒^セ、酤酒^ノ因酤酒^ノ緣酤酒^ノ法酤酒^ノ業、一
 切酒不^レ得^レ酤^ル、是酒ハ起^ル罪^ノ因緣、酒ハ本心ヲ失フ物ニテ、放逸ヲ起スナリ、昔シ水ノホ
 シサニ取違ヘテ、酒ヲ飲テ醉タルモノアリ、此ノ酒ニヨリテ、五戒ヲ破ル、第一ニ飲酒^シ
 テ、醉中不覺、隣家ノ鶏ヲ取テ、醉中ニ食フ、殺生戒破^ル之、主人ノアタヘザルモノヲ取
 ルハ盜犯ナリ、亦醉中ニマギレ鳥主ノ女ヲ姪ス、是^レハ^レ即チ破戒ナリ、鳥主來リ尋ヌレ
 バ、不^レ知ト答フ、此レ妄語ナリ、又コレヲ以テ鳥主ノ女ヲ姪ス、仍チ一時ニ五戒ヲ破ル
 トナリ、又智度論ニハ、酒ニ三十五ノ失ヲ説ク、イワユル醉テ諸財ヲ失ヒ、諸病ヲ起シ、

(117) 寬政本「佛戒」ノ語ナシ
 (118) 寬政本「ルル」ニ作ル

(119) 寬政本「智論ニ曰云」ノ文アリ

(120) 寬政本「ニ」ニ作ル

(121) 寬政本「是」ノ語ナシ

(122) 寬政本「又」以下ノ一節ヲ欠ク

智慧ヲ失ヒ、可^キ得^トヲ得ズ、姪心ヲ生ズ、諸敬ヲ失ス、作業ヲ廢ス、慚愧ヲ失フ等ナリ、
 コノユヘニ一切ノ酒不得^レ飲ナリアレドモ、飲ム咎ハ、我^ハガ^ハ一分ユヘ輕^ハキ^ハナリ、
 酤ル咎ハ、他ヲ損スユヘ、重ナリ、酒器ヲワタシテ、人ニ與ヘバ、五百世手ナカラントア
 リ、而モ菩薩應^レ生^ニ一切衆生明達之慧^ハ、而反更生^ニ衆生顛倒之心^ハ、是菩薩波羅夷罪、此
 戒爲^レ救^フ命^ヲ、爲^レ利^ス他^ヲ、爲^レ治^ス病^ヲ、爲^レ療^ス瘡^ヲ、爲^レ調^ニ食味^ヲ、一分戒開^リアリアレドモ、僧房ニ
 酒ヲ開スルハ、マギレアリテ、法ノ害多シ、能^ハ心ヲ用^ハフ^ハベシ、容易ナルコトナカレ、

※ 寛政本「戒」ノ字ナシ

※ 寛政本「五百生」キ云云ニ作ル

第六不説過 經曰^ニ談他過失戒^ト、若佛子、自説^ニ出家在家菩薩比丘比丘尼罪過^ト、
破戒不如法、等ノ事ヲ云

教^ニ人説^ニ罪過^ト、罪過^ト因罪過緣罪過法罪過業、而菩薩聞^ニ外道惡人及^ニ一乘惡人説^ニ佛法中非法
 非律^ト、常生^ニ悲心^ト、教^ニ化^ニ是惡人輩^ト、令^レ生^ニ大乘善心^ト、而菩薩反更自説^ニ佛法中罪過^ト者、是
 菩薩波羅夷罪、此ノ戒他ヲ利スル爲^ニ失ヲ説^ハク^ハ、又毛頭サワリナキ失ヲ説^ハク^ハ、

一分開アリ、シカレドモ他ノ失ヲ説ケバ、其^ハノ^ハ人怒リテ、利益ナラザルコトアリ、利
 益ナラザレバ、却テ咎ナリ、總ジテ僧俗トモニ、戒ヲ受ケザレバ、佛法中ノ人ニアラズ、
 外道ノ眷屬ナリ、ソレニ向テ三寶ノ失ヲ説クハ、大罪ナリ、コレハ尼在家モトモ可^レ愼、我
 モ覺ユヘズ法中ノ非ヲ説クコトアリ、來說^ニ是非^ト人、即^チ是^レ是非^ト人ナリ、此ノ道ヲ修勲スル
 人ニアラズト知ルベシ、

第七不讚毀自他 經曰^ニ自讚毀他^ト我ガ事ヲ自讚シ、他人ヲ毀ル、此ノ二品ヲソロヘテ犯ズ
 ルヲ、重禁^ハト^ハス、若シ佛子、自讚毀他^ト、亦教^ニ人自讚毀他^ト、毀他因、毀他緣、毀他法、
 毀他業、アルヒハ名聞利養ノ爲、或ハ人ノ恭敬ヲ受ンタメ、或ハ自徳ヲアラハサンタメ、

自讚毀他スルナリ、又古徳云、明カニ知リヌ、外道ニ乘ノ法ヲ學スルモノハ、佛法中ノ非法非
 律ヲ説クト云ハフコトヲ、又小乗戒ヲ説キナガラ、是ハ大乘戒也ト云ハフナリ、大
 乗戒ヲ説クヲ聞テハ、外道天魔ノ法也ト謗スル輩アリ、誠ニ自法愛染ノ故ニ、誑訾他
 人法、雖ニ持戒行人、不脱ニ地獄苦ナルベシ、是ハレヲ自損他損トハ云也、是ハレハ大小
 權實ノ法ヲ分ツトキ、大乘ハ小乗ニマサレリト云ハフニ付テ、如レ此亂動スルナリ、如カナ
 ルヲ大乘トシリ、何カナルヲ小乗トシラザル人ハ、此ノ邪見ヲ信ズル也、然ラバ小ノ法ニ著
 スル時、必ス大乘ヲ謗スル也、故ニ損他ノ咎アリ、自法ヲ愛シテ、地獄ノ苦ヲ不脱ユヘニ、
 自損ノ咎アリ、此ノ故ニ佛祖曰、縱發ニ白癩野子之心、莫作ニ二乘自調行、人人ノ咎ヲ説ク
 コトハ、當時ハ淺近ノ人ナレドモ、始終可至ニ佛果ニ故ニ、イヤシキヲモ咎ヲバ、不レ可ニ説
 謗トナリ、或經ニ諸佛如來ノ過ヲバトクトモ、末世ノ比丘比丘尼ノ過ヲバ不レ可ニ説ト云
 ハフコトアリ、佛ハイカニ謗ズレドモ苦ナシ、初心始學ノ者ハ謗ゼラルレバ、退心ヲ發
 ス故ナリ、而モ菩薩應下代ニ一切衆生、受レ加ニ毀辱、惡事自向レ己、好事ヲバ與他人、若自
 揚三徳、穩ニ他人好事、令ニ他人受モ毀者、是菩薩波羅夷罪、此ノ戒、開遮持犯モトモ多
 シ、總ジテ菩薩ハ、利他ニ違スルハ重禁ナリ、聲聞ハ自利ニ順ズルユヘ、菩薩ト輕重ノ相
 違アリ、菩薩慈⁽¹²⁶⁾ハミヲ以テ他ノ惡ヲ調伏セン爲ニ、他ノ失ヲ呵責シ、又自ノ善ヲ説キ、
 他ヲシテ順ゼシメントスルハ、開スルナリ、アレドモ此ノ作略五徳以上ノ師家ナラデハ成
 シガタシ、利益有無料簡アルベキナリ、
 第八不慳法財 經曰ニ慳生辱戒、若佛子自慳教人慳、因慳緣慳法慳業、而菩薩見ニ一切貧

(123) 寛政本「ノ」ノ字ナシ

(124) 寛政本「ニ」ノ字ナシ

(125) 寛政本「他」ニ作ル

(126) 寛政本「慈心」ニ作ル

窮人來乞者、隨前人所順、一切給與、而菩薩以惡心瞋心、乃至不施一錢一針一草、有求法者、不爲說二句一偈一微塵許法、而反更罵辱、是菩薩波羅夷罪、此戒財法中、法ヲ慳ムハ、モトモ重罪ナリ、又口ヨリ出サズトモ、罵辱ノ心アルハ、犯戒ナリ、又求テモ施サザル法財アリ、イワユル佛法ヲ破セン爲ニ、法ヲ求ルト、名利ノ爲ニ法ヲ求ルト、又有情ヲ害セン爲ニ法ヲ求ルト、又毒藥弓矢網羅等ヲ求ルト、又食セン爲ニ魚鳥ヲ求ルト、又音樂ノ具、碁將棋ノ具、無義無益ノ物ヲ求ルト、又看病ノトキ、他ノ病ヲ生ズル物ヲアタヘザルト、コレ皆アタヘズシテ、其人ヲ利スルユヘニ、開スルナリ、世財ヲ施スニ付テ、暫ク所見ノ不同アリ、一者施ヲ行ズレバ、此ノ因ニコタヘテ來世ニ福ヲ得ベシトス、故ニ施スル事有リ、一者施ヲ行ズル事、必ズ雖非本意、衆生ノ願ニ依テ、施スル事有リ、一者依正ノ二法ニ付テ、皆共著スルヲ、先ヅ依法ノ著ヲ離テ、不借ハ半分解脫有ル故ヘ、施スル事モ有リ、一者自他ヲ不レ分故ニ、施スル事有リ、抑又其ノ身ニ世財モナク、法財モナカラムニハ、此ノ戒ヲ受持セムト擬ストモ不得ナルベキカ、シカアラザル也、縱雖無財、他人ノ施ヲ行ゼムヲ見テ、隨喜スベシ、隨喜ノ福報ハ、施シトヒトシクシ、無異ト因果論ノ中ニ説ク、法財モ又身ニ無シト云ヘドモ、知識有テ人ノ爲ニ法ヲ説ム（カン）ヲ聞テ、隨喜スベシ、至テ慳貪ナルム物ハ、施ヲ行ズルヲ見テ、隨喜スル心無クシテ、他人所[※]有ノ財ナレドモ惜ム心アリ、又法ヲ求ルモノノ爲ニ、一句一偈ノ法ヲ説ハク¹³⁰ヲ聞テ、他人ニハキカシメズシテ、我ノミ見聞セント慳法スル事有¹³¹リ、此輩ハ千佛ノ出世ニ遇¹³¹ハフ¹³¹ト云¹³¹ハフ¹³¹トモ、度脫ノ期不¹³¹可¹³¹有、又財ヲラシムニ付テモ、所見ノ不同アリ、一者一切

(127) 寛政本「依施スル事アリ」ニ作ル

(128) 寛政本「ル」ノ字ナシ

(129) 寛政本「隨喜スベシ」ノ語ナシ

※ 不用ノ字カ、寛政本「ム」ノ字ナシ

(130) 寛政本「シ」ノ字アリ

(131) 寛政本「華」ニ作ル

財寶自ラ受用シテ、他ニ與ヘザラシムトイトナム慳貪モ有リ、一者自心ニモ惜ミ、他人ニモ惜テ、只徒ニタクワユ持ムト擬スル慳貪モ有リ、一者自身所受ノ境界ニハ不惜ト云ヘドモ、他ノ孤貪ナルヲ不レ救慳貪モアリ、一者自身所受ノ境界ニハ不惜、一者名聞ニヨリテ雖不レ惜、慈悲ヲワスルル慳貪モ有リ、一者妄想顛倒ノ法ニハ雖不レ惜、實相無漏ノ理ニ背ク慳貪モアリ、是則過去遠遠ヨリアヤマリテハ、慳不慳ニカカワルユヘ、所見ノ不同アリ、誠ニ貧苦無福、智慧ノ恨アリツベシトイヘドモ、既ニ未曾惜ノ道理ヲアクマデ受持スル事ヲ得タリ、此未曾惜ノ因ニアラムヨリハ、受持妙樂ノ果得ル事不レ可有也、善惡ノ法ヲ云ハフ▽ニ、加行根本後悔ト云ハフ▽事アリ、功德モ修テ後ニ悦ブ意アル、是ハレ▽善法ト成ルト云ハフ▽、又修シタル善ヲ後悔スルハ、斷善根ナリ、可レ恐可レ恐、所有ノ財寶ヲ以テ、施^レ他人^ニ、依^レ爲^レ檀波羅蜜、後生ニ福人ト生レトモ、此ノ寶不レ被^レ任意バ、此ノ施ヲ悔ル心アリシモ如此ナリ、他人ノ修スル施ヲ、ヨソニテ隨喜スレバ、必ず我ガタクハヘハナケレドモ、自然ノ活命ノハカリ事モアルモノナリ、

第九不瞋恚 經曰^ニ瞋不受謝戒^ト、若佛子^シ自瞋、教人瞋、瞋因瞋緣瞋法瞋業、ソレ瞋ノ一念至テ恐レ瞋ムベキナリ、須彌山ノ如キ廣大功德善利モ、瞋火起ルトキ、即時ニ焚滅ス、佛言、瞋恚之害、甚^ニ於猛火^ニ、又云、劫^ニ功德賊^ト、無^レ過^ニ瞋恚^ト、尼衆在家モ、モトモ深ク戒ムベシ、人我嫉妬、種種ノ妄瞋、念念相續シテ、無量ノ罪ヲ生^レ入^レジ[▽]、終ニ其ノ身ヲ誤リ、父子眷屬ヲ惱亂シ、國家ヲ騷亂スル、皆此一念ノ瞋ヨリ生ズルナリ、此一念起ルトキ、直下返照スレバ、即^レ入^レチ[▽]空平ナリ、是^レ入^レレ[▽]乃^レ入^レチ[▽]佛心ナリ、戒心ナリ、又念念ツケバ轉

(132) 寬政本「智慧」ノ語ナシ
(133) 寬政本「曰」ニ作ル

(134) 寬政本「ソ」ニ作ル

(135) 寬政本「モノ」ニ作ル
(136) 寬政本「比」ニ作ル

(137) 寬政本「生ズ」ニ作ル

※ 寬政本「ツケバ」ニ作ル

夕熾ンナリ、是ハレ▽乃ハチ▽天魔ナリ、下凡夫ナリ、而菩薩應下生ニ一切衆生中善根無諍
 之事、常生中悲心、而反更、於ニ一切衆生中、乃至於ニ非衆生中、草木土石等云以ニ惡口ニ罵辱、加以ニ
 手打及刀杖、意猶不レ息、善人求レ悔、善言懺謝、猶瞋不レ解、是菩薩波羅夷罪、コレ懺悔ハ
 法中ノ大理ニシテ、其人大ニ非ヲ知入り▽、悔過スレドモ、尙イカリアリテトケザルハ、
 大咎ナリ、此戒利他ノ爲ニハ開ス、官吏ノ罪人ヲ呵責シ、父母ノ子ヲ罵辱シ、主人ノ家族
 ヲ怒罵シ、師匠ノ弟子ヲ毀辱ス、コレ皆大悲ヲ以テ、瞋相ヲ現ズルナリ、又懺悔シテモ、
 聞入ハレ▽ヌコトアリ、コレ利他ノ方便ユヘ、犯ニアラズ、若ハシ▽一念ニテモ、實ニ惡
 ムノ瞋恚ハ大ナル咎ナリ、

(138) 寛政本「リ」ノ字アリ

※ 寛政本「ハナル」ニ作ル、大ノ脱字カ

第十不謗三寶 經曰ニ毀謗三寶戒、若佛子、自謗ニ三寶、教レ人謗ニ三寶、謗因謗縁謗法謗業、
 佛法僧ハ本ト無キモノトテ、邪見ヲ起シ、外道ニクミシテ、謗ズルハ重禁ナリ、モトモ小
 乘ヲ謗ズルハ輕ナレドモ、ソノ品ニヨリ重トナル、大乘ヲ謗ズルハ、至テ重シ、而菩薩、
 見ニ外道惡人一言謗佛音聲、如ニ三百銖刺心、況ヤ口自謗不レ生ニ信心孝順心、而反更、助
 惡人邪見人、謗是菩薩波羅夷罪、善學諸人者、是菩薩十波羅提木又、應ニ當學、於レ中不レ
 應ニ一犯、如ニ微塵許、何況具足犯三十戒、若有レ犯者、不レ得現身發ニ菩提心、亦失ニ國王
 ノ位、轉輪王位、亦失ニ比丘比丘尼位、失ニ十發趣十長養、十金剛十地佛性常住妙果、一切
 皆失、墮ニ三惡道中、二劫三劫ニモ不レ聞ニ父母三寶名字、以レ是、不レ應ニ一犯、

(139) 寛政本「輕」ノ下ニ「キコト」ノ語アリ
 (140) 寛政本「重クナルナリ」ニ作ル
 (141) 寛政本「ズ」ノ字ナン

護持

涅槃經中、佛言今以ニ正法、付ニ囑國王大臣乃至四部之衆、應下當勸ニ勵諸學人等、令レ得レ増ニ

上戒定慧、若有_{ラバ}不_レ學_ニ是_三品法_ハ、懈怠破戒毀_ニ正法_ニ者_ハ、國王大臣四部之衆、應_ニ當_ニ苦治_ス、
又言、若於_ニ僧中_ニ有_ニ破戒_{スル}者、不_レ應_下以_ニ披袈裟_ニ因緣_上恭敬禮拜、コノ故_ニ震旦日本_トモ_ニ、
國王大臣寺社ノ奉行ヲ立テ、僧錄寺司ヲ置テ、僧中ノ非律ヲ苦治セリ、誠_ニ靈山ノ付囑ヲ
欽_ミ玉フ、我輩ノ孔幸ナラズヤ、若_ハシ_レ夫_ハレ_レ三品ノ法ヲ學_バズシテ、陽_ニハ_レ葷酒ヲ
食_ヒ、陰_カニ色貪_ニ溺_レ、樗蒲圍碁等、無義ノ戲ヲナシテ、身大小寺院ニ寓_シ、安_ラ偷_日
ヲ過_シ、破戒無慚ナルモノ、往往_ニシテアリ、誰カ有知_ノ者、嘆息セザルコトヲエンヤ、佛_ハ
言_フ、若_シ佛子信心出家、受_ニ佛正戒_ハ、故起_レ心毀_ニ犯_セ聖戒_ニ者、不_レ得_レ受_ニ一切檀越_ノ供養_ハ、亦不_レ
得_ニ國王地上_ノ行_ハ、不_レ得_レ飲_ニ國王水_ハ、五千大鬼常遮_ニ其前_ハ、鬼言_ニ大賊_ハ、若_ラ入_ニ房舍城邑宅中_ハ、
鬼復掃_ニ其_ノ脚跡_ハ一切衆生眼不_レ欲_レ見_ハ、犯戒之人畜生無_レ異_ル、木頭無_レ異_ル、又言獅子身中蟲、
自食_ニ獅子肉_ハ、又於_ニ楞嚴會上_ニ、誠_ニ後來弟子_ハ、言_フ云何賊人假_ニ我_ノ衣服_ハ、裨_ニ販_ニ如來_ノ造_ニ種種業_ハ、
カクノ如キ佛言、徹骨徹髓、畏_レズンバアルベカラズ、思_ハズンバアルベカラズ、國王大臣
モシ上來ノ佛制ヲ知_ラバ、必ズ奉行_ニ命_ジテ、之ヲ苦治スベシ、其時イカンゾ國王ノ地ヲ
行クコトヲエンヤ、國王ノ水ヲ飲ムコトヲエンヤ、信心檀越モシコレヲシ_ラバ、一絲一粒
トイヘドモ、施スベカラズ、其時イカンゾ衣食ヲ得、饑寒ヲ免_ンヤ、縱ヒ奉行コレヲ許_シ、
檀越コレヲ施ストモ、佛ニ明誨アリ、曰_ク寧_ニ以_ニ熱鐵羅網_ハ、千重周匝纏_レ身終不_下以_ニ破戒_ノ之身_ハ、
受_ニ於_ニ信心檀越一切衣服_ハ、寧_ニ以_ニ此口_ハ、吞_ニ熱鐵丸_ハ及大流猛火_ハ、經_ニ百千劫_ハ、終不_下以_ニ破戒_ノ之
口_ハ食_ニ信心檀越百味飲食_ハ、嗚呼明誨如_レ是_ニシテ、佛ヲ信_ゼズ、鬼ヲ畏_レズ、因果ヲ撥無_シ、
正因ヲ昧却シテ、奉行檀信ノ寛有信仰ヲ恃_ンデ、安然トシテ、大言シテ己ヲ誤_リ、人

※ 寛政本「ヲ」ニ作ル

ヲ誤ル、亦悲傷セザランヤ、今後生勉學、戒律持タズ、定慧習ハズ、道德修セズ、專ラ虚

頭ヲ學ビ、偏ヘニ博學ヲ術ヒ、内ニ名利ヲ抱キ、外ニ殊勝ヲ現シ、常ニ曲學妄辨ヲ以テ、

流浴ヲ搖動シ、法門ヲ玷辱ス、コレヲ牽ケドモ、返ルコトナシ、怨ナルカナ怨ナルカナ、

山僧今此ノ山ニ住シテ、普州ノ人賊ヲ送ルガ如ク、身ヲ兼テ、其ノ中ニアリトイヘドモ、

心潛ニ時弊ヲ傷ミ、耿耿トシテ、或ハ寢ラレズ、今幸ニ大機大心菩薩ノ大戒ヲ珍敬シ、尊

重シテ傳ント乞者、受ント乞者、異口同念誠ヲ傾ケテ祈請ス、忽老懶ヲ忘テ、義ヲ見テ拒

マズ、終ニ心地ノ戒壇ヲ啓建シテ、親ク金剛ノ寶戒ヲ授ケ、乃[※]ハチ[※]正傳ノ血脈ヲ付ス、

夫同一菩薩戒トイヘドモ、傳ヘテ禪戒トスルニ及[※]ハ[※]ン[※]デ、ハルカニ諸家ノ測量スル所ニ

アラズ、宗門ノ一大事ト稱スルコト、實ニユエンアルナリ、室内ノ戒壇、直ニ毘盧性海ヨ

リ涌現シテ、授受ノ儀則、最[※]ハ[※]モ[※]是[※]ハ[※]レ[※]希有、不可思議ナルモノナリ、且其ノ護持ノ

際ダ、第一快意殺生戒中ノ如キ、祖師ノ猫ヲ斬リ、蛇ヲ斬リ、蚓ヲ斬リ、是レ其慈愍護生

ノ常情ヲ出テ、菩薩ノ心地ヲ了スルモノ爲¹⁴⁴ニナル所ニテ、第十毀謗三寶戒中ノ如キ、維摩

ノ佛ヲソシリ、法ヲソシリ、僧ヲソシル、是亦信順三寶ノ常情ヲ出テ、持犯ノ軌轍ニカカ

ハルモノノ爲ル所ニアラズ、乃至中間一一戒中、或ハ如[※]是ノ類アリ、タダーノミニアラ

ズ、肉見ヨリ見レバ、律儀ヲ守ラザルニ似タリトイヘドモ、法眼ノ照ストコロ、亦律儀ニ

違ハズ、蓋シコレ攝善法戒、饒益有情戒ノ寓スル所ニシテ、其ノ眞正ノ見ヲ具スルモノニ

アラズンバ、爭カ能ク如是ノ護持ノ相ヲ了センヤ、コノ故¹⁴⁶ニ、古來吾門嗣法人ノ外、學地

分上壇ヲ開キ、戒ヲ授ルコトヲ許サズ、利養ノ爲ノユヘニ、弟子ヲ惡求スルハ、是レ戒經

※ 寬政本「修行シ」ニ作ル

(142) 寬政本「ソ」ニ作ル

(143) 寬政本「考」ニ作ル

※ 寬政本「乃至」ニ作ル

(144) 寬政本「爲ニ」ヲ「ノ」ニ作ル

(145) 寬政本「中」ニ作ル

(146) 寬政本「ニ」ノ字ナシ

中ノ制スル所口、慎マズンバアルベカラズ、タトヒ是レ嗣法人モ、其ノ法臘德義イマダ兼備ハラザルトキハ、又容易ニ壇儀ヲ啓クベカラズ、時節因縁ヤムコトヲエザルニ逼テ、而後師位ニ處シ、佛ニ代テ化ヲアグルモノ、是レ其ノ實ヲ得タリトス、三學ノ内、戒ヲ以テ首トス、定慧コレニ次グ、イワユル持戒ヲ爲ニ本地、禪定爲ニ屋宅、能生ニ智慧光、次第得ニ明照、[※]定慧力莊嚴、萬行爲ニ具足、乃至成ニ佛道、悉猶戒爲レ本、宜ベナルカナ、ノタマヘルコトヤ、譬ヘバ病ニ灸スルガゴトシ、其ノ初メ一壯是レ甚ダ熱シテ、堪忍シヤスカラズトイヘドモ、若シコレヲ除ヒテ、二三壯ノ如シ、若シ此ノ序ニ由ラズンバ、亦豈ニ煩惱ノ重病ヲ平治スルコトヲ得ンヤ、受戒スルコトヤスカラズ、持戒モトモカタシ、浮囊ヲ帶ルガ如ク、微塵バカリヲ損スレバ、沈溺ヲ免レズ、茅草ヲ握ルガ如シ、モシ緊急ニセズンバ、必ズ其ノ手ヲ傷ン、徳瓶ヲ護スルガ如シ、¹⁴⁷僣慢ヲ存スルコトナカレ、狂象ヲ調ルガ如ク、鐵鉤ヲ放ツコトナカレ、如是能ク受持シテ、受持ノ相ナキニイタル、是レ所謂不取ニ正戒相、亦無ニ邪念心、是名ニ清淨戒、諸佛所ニ稱讚ニ者、ソレシカラズヤ、イワユル不取ニ正戒相、亦無ニ邪念心ニモノイカガ心得ベキゾ、此ノ心得ナキハ、禪戒ノ當人ニアラズ、又却テ障碍トモナレリ、淨業障經ニ十七ノ障碍アリ、貪欲、瞋恚、愚痴、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧、佛想、法想、僧想、空想、無相想、無作想、無行想、無生想、¹⁴⁸右十七ノ中、¹⁴⁹三毒ノ外ハ、一殊勝法門ナリ、然レドモ、ワヅカニ吾我ノ念想アルトキ、其ノ障碍乃チ一般ナリ、又臨濟大師云、持戒持齊、長坐不臥、造地獄業、コレ持戒持齊ヲ嫌フニアラズ、想念偷心ヲ誠ルナリ、シカレバ佛法中ニテ、我コソ戒ヲ受ケ、我コソ持ツト、

(147) 寛政本「戒學五德等」ニ作ル

※ 寛政本「定慧力、莊嚴萬行爲具足」ニ讀ム

(148) 寛政本「一」ニ作ル
(149) 寛政本「勝」ノ下ニ「ノ」ノ字アリ

戒見法見ワズカニ生ズレバ、早ヤ魔事トナリ、佛事ニアラズ、コノ故ニ古徳云、三羯磨ノ中、早成ニ破戒ト了レリ、汝能ク持ンヤイナヤ、能ク持ツト三遍羯磨ノ中、早ク破戒トナルトナリ、又古徳云、自性戒體ヲ説キ示ス文アリ、一心戒儀ト名ク、

自性靈妙、於ニ常住法中、不レ生ニ斷滅見、名爲ニ不殺生戒、

自性靈妙、於ニ不可得法中、不レ起ニ可得念、爲ニ不偷盜戒、

自性靈妙、於ニ無著法中、不レ起ニ愛著見、爲ニ不婬欲戒、

自性靈妙、於ニ不可說法中、不レ説ニ一字、爲ニ不妄語戒、

自性靈妙、於ニ本來清淨法中、不レ生ニ無明、爲ニ不飲酒戒、

自性靈妙、於ニ無過患中、不レ可レ説ニ過罪、爲ニ不説四衆過罪戒、

自性靈妙、於ニ平等法中、不レ説ニ自他、爲ニ不自讚毀他戒、

自性靈妙、於ニ眞如周遍法中、不レ生ニ一相堅執、爲ニ不慳貪戒、

自性靈妙、於ニ無我法中、不レ許ニ實我、爲ニ不瞋恚戒、

自性靈妙、於ニ一如法中、不レ起ニ生佛念、爲ニ不謗三寶戒、

又我宗門ノ室内ニ教授ノ戒文アリ、天童永平傳戒ノ祕訣ナリ、永平ノ眞作ゾト聞ユ、其ノ

文、難信難解ナリ、正傳付囑ノ仁ニアラザルヨリハ、如是爲説ナリガタカラシ、又其ノ正

嫡ニアラザルヨリハ、信解シガタシ、茲ニ古徳ノ提示シ玉フアリ、略ボ一ニヲ擧示ス、

第一不殺生 戒文云、生命不レ殺、佛種增長、可レ續ニ佛慧命、勿レ殺ニ生命、不殺生ノ時、

續ニ佛慧命也、以ニ不殺生ニ爲ニ佛壽命也、夫レ不殺ト云ハフ、生ヲ見ルニアラズ、死

(150) 寛政本「聞ユ、」ノ下ニ「亦壯公ノ眞作トモイヘリ、イヅレニモ」ノ文アリ

(151) 寛政本「一」ニ作ル

ヲ見ルニアラズ、亦不生不滅ヲ見ルニアラズ、只一戒光明ノ道理ナリ、シカラバ不殺生滅
ヲ受持スルトキ、懺悔ノ法モアリ、三歸三聚ノ戒モアリ、八萬聖教モアリ、諸佛ノ十號モ
具足スルナリ、故ニ一戒光明ハ、十戒光明也、是ヲ十無盡戒藏ト云ハフ▽ナリ、然ハラ▽
バ一戒ヲ受持スルトキ、諸戒受持ナラズト云ハフ▽事ナシ、是ハレ▽以ハテ▽一塵ヲ知レ
バ、盡界ヲシリ、一法ヲ通ジル者ハ、萬法ヲ通ズ、通ヲ學セルモノ、通徹ノ時、萬法ヲモ
見ル、一法モ見ルガユヘニ、一塵ヲ學スルモノ、ノガレズ、盡界ヲ學スルナリト云ヘリ、
是則諸佛ノ大事也、此ハノ▽故ニ此ノ戒ハ、凡夫ニ乘ノ測度ニアラズ、諸ニ諸佛之本源、
行菩薩道ノ根本也、

第二不偷盜 心境如如、解脫門開也、是レ心ト境ト量テ如如ト云ハフ▽ニアラズ、三界唯一
心、心外無別法ト解脫スルナリ、正恁麼ノ時、盡十方界、一顆ノ明珠ナリ、惜ムベキ主モナ
ク、盜ムベキ面目ナシ、盜不盜トモニ不可得ナリ、是ハレ▽ヲ自他平等ノ功德ト云ハフ▽、
第三不貪姪 三輪清淨、無所希望、諸佛道同者也、三輪トハ、身口意、又ハ貪瞋痴ニア
タル、清淨トハ佛性本來清淨ニシテ、淨穢ノ二法超越スルナリ、夫レ三界無ニ淨穢ハ、大地
有情同時成道ノユヘニ、或ハ起ニ男女見ハ、是ハレ▽ヲ姪ト云ハフ▽、或ハ見ニ淨穢法ハ、是
ハレ▽ヲ希望ト云ハフ▽、此ノ佛性戒ヲ受ルトキ、以ニ佛性ニ爲ニ身口意ハ故ニ三輪清淨ト云
ハフ▽ナリ、一人清淨ナラムトニハアラズ、盡界清淨ナリ、盡界更ニ客塵ナシ、直下第二
人ニアラズ、諸佛道同ナルモノナリ、

第四不妄語 法輪本轉無缺無剩、甘露一潤得實得眞也、シリヌベシ、妄語生ズルトキ

(152) 寛政本「ヲ」ノ字ナシ

(153) 寛政本「ヲ」ノ字ナシ

(154) 寛政本「ズ」ニ作ル

(155) 寛政本「通學セルモノ」ニ作ル

(156) 寛政本「餘」ニ作ル

(157) 寛政本「ニ」ノ字ナシ

ハ、大地有情同妄語也、不妄語生ズルトキ、大地有情悉不妄語也、然レレバ流轉生死ノ前
ニハ、妄ニアラザル一塵ナク、佛眼佛智ノ前ニハ、眞ニアラザル一法ナシ、故ニ眞妄二
ハツヅニアラズ、更ニ妄ノ外ニ眞ヲ不レ可レ求、誠哉、求レバ、シリス、君ガウベカラズト
云ハフヅコト、喩ヘバ唯有不妄語ナリ、無ニナルベシ、無三ナルベシ、此ハノ道理ハ十
方佛祖共ニ一句ニ説盡スルナリ、故ニ法輪本轉ト云ヘリ、不妄語ノ外ニ二三ナキガユヘ
ニ、無レ剩無レ缺トモ云ヘリ、一乗甘露ナルガユヘニ、一潤ト云ヘリ、除ニ佛方便説ニナルガ
故ニ、得レ眞得レ實也ト云ハフヅ、又實相、懺悔ヲ修シヌル上、何ノ妄語カアルベキ、妄語ヲ
量テ、不可妄語ト制止スルニアラズ、端坐思ニ實相ニ也、コレ盡十方界、眞實人體ノ轉法輪
ナルナリ、

第五不酤酒 未ニ將來、莫レ教侵、正是大明也、夫レ生死モ酒ナリ、涅槃モ酒ナリ、凡聖酒
ナリ、迷悟モ酒ナリ、不酤酒ノ明達トハ、未將來ナリ、莫教侵ナリ、但ダ未將來ト云ハフヅ
カ、生死涅槃共ニ未將來ナリト心得ル、是ハレレヅヲ歸正ニテアルナリ、前ニ迷、後ニ悟ルト
ハ不可ナリ、相對シタルトキハ、半分ナリ、少分ナリ、大明ナラズ、未將來ト云ハフヅト
キ、大明ナリ、大佛ナリ、大法ナリ、大實相ナリ、大心ナルベシ、コレガ明達ノ慧ナルナ
リ、

(159) 寛政本「下可曰」ニ作ル
寛政本「ハ」ノ字ナシ

第六不説過 於ニ佛法中ニ同道同法、同證同行、莫レ教説過、莫レ令ニ亂道、夫レ道ヲ道ノ如ク
ニ説ハキヅ、行ヲ行ノ如クヅニ證スルヲ、不讚毀ト云ハフヅ、シカラバ不解得道ユヘニ、
見色ニ過失アリ、不明心ユヘニ聞聲ニ過失アリ、不悟道ユヘニ衆生ヲバ咎アリト云ハフヅ、

但ダ被^ル攝^セ佛戒二⁽¹⁶⁰⁾時ハ、凡聖ノ跡ナシ、佛戒ヲ受ル故ニ、即^チ入^ル諸佛位^ニ、乃^チ入^ル

(160) 寛政本「二」ノ字ナシ

是^レ入^ル同道同法、同證同行ナルナリ、又大地有情同時成道ナルナリ、其^レ入^ル時、都テ
咎アルベカラズ、亂道アラザルナリ、

第七不自讚毀他 乃佛乃祖、證^シ盡空^ニ、證^ス大地^ニ、或^ハ現^ス大身^ニ、空無^ニ中外^ニ、或^ハ現^ス法身^ニ、地
無^ニ寸土^ニ、夫^レ佛道ヲ習^フト云^フハ、自己ヲ習^フナリ、自己ヲ習^フト云

ハフハ、經卷是^レ入^ル自己ナリ、知識是^レ入^ル自己ナリ、法性是^レ自己故⁽¹⁶¹⁾、凡夫外道ノ

(161) 寛政本「自己、故ニ」ニ作ル

邪計セル自己ニハ非^ハザ^ルナリ、然^ラバ盡十方是^レ自己也⁽¹⁶²⁾、是^レ自己ハ盡十方界
也、自己トハ父母未生已前ノ鼻孔ナリ、自己ノ外ニ他己ヲ脱脱シ、他己ノ外ニ自己ヲ脱落

(162) 寛政本「ハ」ノ字アリ
(163) 寛政本「是」ノ字ナシ

スルナリ、シカレバ自己ノ身心、及^ビ他己ノ身心ヲ以テ、脱落ナラシムルヲ、不讚毀

自他戒トハ信受スベキ也、謂^フユ^ル脱落ノ自己ニハ、讚毀好惡ノ儀アルベカラズ、如^シ

此自己ヲ習^フヲ、佛ト云^フハ、祖ト云^フハ、盡空ヲ證スト云^フハ、大地ヲ證

スト云^フハ、或^ハ現大身證虛空中ト云^フハ、或^ハ現法身地無寸土ト云^フハ、此

ハノ故ニ所證ノ功德、悉皆自己ノ皮肉骨髓ナルヲ、不自讚毀他戒トハ、受持讀誦スル也、

第八不慳法財 一句一偈、萬功萬德也、一法一證、諸佛祖也、從來未^ニ曾^レ惜^ニ也、布施波羅

蜜者、六度之中、妙行也、曾^レ不^レ惜^ニ身命^ヲ、眼晴ヲ不^レ惜、身肉ヲ惜マズ、國城ヲ惜マザルハ、

古來ノ芳躅ナリ、可^レ知、正法眼藏ヲ惜マズシテ、大迦葉ニ付囑セシハ、本師釋迦尊ノ布

施波羅蜜ナリ、身命ヲ航海ニ惜マズシテ、傳法救迷情スルハ、初祖ノ布施波羅蜜ナリ、利

刀ニ臂ヲ惜マズシテ、正法ヲ得シハ、二祖ノ布施波羅蜜ナリ、シカノミナラズ、早ク名利

ヲ抛チ、永ク我我所ヲ捨テテ、專一辨道ニテ、無レ犯無レ非ハ、代代曩祖ノ布施波羅蜜ナリ、畢竟シテイハバ、衆生悉有ノ依正、併セ諸佛ノ證道ニ給與シテ、不惜布施波羅蜜アリ、諸佛ノ證道ヲ衆生ノ依正ニ給與シテ、不惜布施波羅蜜アリ、是レレヲヨムデ、暫ク世財法財

※ 寛政本「給與シテ不惜、」ニ讀ム

共ニ不可惜戒ト名クルナリ、今ノ説ヲ世財ト法財ト差別アリヤ、ナシヤ、若シ差別アリト云ハハバ、三界唯一心ナリ、若シ無差別ト云ハバ、心外無別ナルベシ、又經ニ説ハクガ如キハ、世財モ不レ可惜、法財モ不レ可惜ト云ハフ、然ラバ不慳ヲ以テ世財トナス也、以ニ不慳ニ爲ニ法財、不慳ノ一法ニ差別ナキユヘニ、世財法財又同異ノ論ニ不可及、所謂一錢一針一草ノ諸法ヲ、世財同時ニ不レ惜ナリ、此ノ故ニ一句一偈ハ一萬徳ナリ、一法一證ハ諸佛諸祖ナリ、從來未曾惜也ト説ハキ給ヘリ、シカルニ世財ヲ施スニ付テ、所見ノ不同様様ナリ、是レレ則レ過去遠遠ヨリアヤマリテ、慳不慳ニカカワル故ナリ、誠ニ貧苦無福慧ノ恨ミアリツベシトヘドモ、今既ニ未曾惜ノ道理ヲアクマデ受持スル事ヲ得タリ、此ノ未曾惜ノ因ニアラズヨリハ、受勝妙樂ノ果、得ル事不レ可有也、

(164) 寛政本「萬」ニ作ル

第九不瞋恚 非レ進、非レ退、非レ虚、非レ實、有ニ光明雲海、有ニ莊嚴雲海、今マ佛祖ノ家常ニ甘露門ヲ開テ、進歩退歩スルヲ、瞋恚不瞋恚トハ習ハフ也、ユヘニ非退非進ト云ハフ非實非虚ト云ハフ、此ノ道理無邊際ナルガユヘニ、有ニ光明雲海、有ニ莊嚴雲海ト道取スルナリ、シカモ如是ナリトイヘドモ、此ハ是レレ學言語ノ道理ナリ、此ノ外又イカナル瞋恚不瞋恚カアル、可レ知、天下ノ人咬ニ嚼柱杖、不碎ナルヲ不瞋恚トシ、爲ニ大衆ニ竭レ力、喝一喝スルヲ瞋恚ト習ハフナリ、

(165) 寛政本「瞋恚」ノ語ナシ

(166) 寛政本「ナ」ニ作ル

第十不謗三寶 現身演法、世間津梁、德歸三薩波若海、不可稱量、頂戴奉行也、永平八痴ノ字ヲ加ヘテ、不痴謗三寶ト仰セラル、尤モ難^キ有垂示ナリ、如來ノ說ヲコソ聞カザラメ、宿トニ般若ヲキク、緣ニヨリテ正嫡ノ佛法ニ逢ヒ奉リ、知識經卷ニ逢ヒ、尤モ誹謗ノ心ヲスツベシ、聞ク時ハ山海トモニ功德現前スベシ、疑フコトナカレ、祖師ノ言句ニモ、經卷ニモ明ナリ、信ゼザルモノハ、謗三寶ナリ、痴ノ至リ也、現身演法、世間津梁也ト云、身法津梁トナル、法性海、眞如海、是レ^レ般若海也、津梁ハ渡スル心ナリ、ユヘニ津ノ字アリ、梁ハ津ニツキテ梁ト云^フ、コレ即^チ我ガ禪戒ノ妙體ナリ、三世ノ諸佛、歷代ノ祖師、此ノ妙體ヲ傳誦シキタレリ、嵩嶽ノ高祖、永平ノ古佛モ、此^ノ妙體ヲ受持シ來レリ、丹霞ノ天然、藥山ノ高沙彌モ同ク傳受シ來レリ、汝等一切ノ菩薩モ今學ス、己ニ學シキ、畢竟イカガ心得ベキ、洞山高祖云、擬^レ心是犯戒、カクノ如ク心地ノ妙戒ヲ付受シテ、乃^チ正傳ノ血脈ヲ授與ス、夫レ血脈ハ戒譜ニシテ戒脈ナリ、先師ノ垂說アリ、舉示スベシ、夫レ此ノ血脈信焉者、知^リ是佛祖命根脈、不^レ信焉者、認爲^ニ朱墨合成底一枚故紙^ニ耳、者婆醫之見^ニ草木、盡^ク是靈藥而常人見爲^ニ間草木、釋摩男之取^ニ瓦礫、無^レ非^ニ金寶^ニ而常人取爲^ニ片瓦礫^ニ者匪^ニ其人^ニ也、非^ニ其機^ニ也、葉縣歸省禪師曰、宗師血脈、或凡或聖、龍樹馬鳴、天堂地獄、鑊湯^ノ炭、牛頭獄卒、森羅萬象、日月星辰、他方此土、有情無情、以^テ手畫一畫曰、俱入^ニ此宗、此宗門中亦能殺^レ人、亦能活^レ人、殺人須^レ得^ニ殺人刀、活人須^レ得^ニ活人句、是他葉縣、發^ニ明血脈、說得^ニ無^レ餘、今若有^レ人問^ニ山僧作麼生是殺人刀活人句、只指^ニ血脈頂上一圓相^ニ道、祇^レ這是殺也全機現、活也全機現、都來不^レ出^ニ此一圏中、此一圏中、

(167)

寛政本「者」ノ上ニ「ニスル此ノ血脈、是レ佛祖屋裏ノ靈藥金寶ニシテ、而見テ爲^ニ間草木取テ爲^ニ片瓦礫^ニ者」ノ文アリ

所謂俱入_ニ此宗_一、是以不_レ問_ニ姪男姪女_一、發_{スル}一_ハ念_ノ信_力則齊付_ニ此血脈_一、令_ニ其結_ニ緣_ヲ於此宗_一門中_一、又豈_レ不_ニ博_大殊勝功德聚_ニ哉_一、此宗門中、空_ノ智_ヲ空_ノ見_ヲ信_ヲ爲_ニ能入_ト、則無_ニ機_一不_レ收、無_ニ物_一不_レ容、梵網經曰、一切有_ル心者、皆應_レ攝_ニ佛戒_一、佛言如是、不_レ可_ニ不_レ信_有、又大灌頂神咒經曰、三十六神護_下受_ニ三歸_一人_ハ、二十五神護_下持_ニ五戒_一人_ハ、況_ヤ此大戒、乃佛乃祖、天神地祇、同所_ニ護念_一、其誰不_ニ珍敬_一、切莫_レ生_ニ輕忽_一、至禱至禱、

斯時寶曆七年五月吉旦 於妙玄精舍拜寫之

(168) 寛政本「令_ニ其結_ニ緣_一、於_レ此宗門中_一」ニ讀ム

(169) 寛政本「不_レ可_レ不_レ信_一」ニ作ル